

取扱説明書及び部品表

Takakita

クロ-ラローバ-ラ

VC-981WXC

VR-981WXC



本製品を安全に、また正しくお使いいただくために
必ず本取扱説明書をお読みください。

お読みになった後も大切に保管してください。

本取扱説明書はお手持ちのスマートフォンや
タブレットから右記QRコードを読み込んで
アクセスすることができます。



株式会社 **タカキタ**

は じ め に

このたびは本製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書は、**クローラロールペーラ**の取扱方法と使用上の注意事項について記載してあります。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みの上、正しくお取り扱いいただき最良の状態でご使用ください。

- お読みになったあとも必ず製品に近接して保存してください。
- 製品を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を製品に添付してお渡しください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い上げの販売店または当社にご注文ください。
- 本書は、**注意**として知っておくとお得な製品の性能や、製品自体の損傷防止に関する留意事項を書いてあります。
- なお、本製品については不断の研究成果を新しい技術として直ちに製品に取り入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- ご不明なことやお気付のことがございましたら、お買い上げの販売店または当社にご相談ください。

警 告 サ イ ン

 印付きの下記マークは安全上、特に重要な項目ですので、よく読んで必ずお守りください。

 **危険** その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

 **警告** その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

 **注意** その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示します。

目 次

 安全に作業するために	1
本製品の使用目的とサービスについて	11
各部の名称とはたらき	12
トラクタへの装着	14
1. 装着のしかた	14
2. ユニバーサルジョイントの取付け	14
3. コントロールボックスの接続	16
運転に必要な装置の取扱い	17
1. 油圧装置	17
2. コントロールボックスの取扱い	18
3. ネットの取付け	18
4. トワインの取付け	20
5. ネット／トワインの選択	21
6. ロール直径の設定	21
7. 梱包圧の設定	21
8. 自動注油装置の取扱い	22
9. 安全装置の取扱い	23
10. ピックアップ装置の取扱い	24
11. Vヒッチの取扱い	25
12. 切断装置の取扱い	25
13. テールランプの確認	26
作 業 方 法	27
1. 作業前に	27
2. P T O の回転速度	27
3. 拾い上げ方法	27
4. 作業速度について	28
5. コーナーでの走り方	28
6. ブザーが鳴ります	28
7. 傾斜地での作業	28
作業前の点検について	29
1. 点検一覧表	29
簡単な手入れと処置	30
1. チェンの張り調整	30
2. 切断ナイフの手入れ	30
3. クローラ部の点検	30
4. 各部の注油・グリスアップ	32
5. 長期格納時の手入れ	34
不 調 診 断	35
付 表	38
1. 主要諸元	38
2. 電装	39



安全に作業するために

取扱説明書と本機に貼ってある⚠表示ラベルをよく読み、機械の使い方をよく理解した上で使用してください。また、機械を点検して異常がないかを確認してから使用してください。

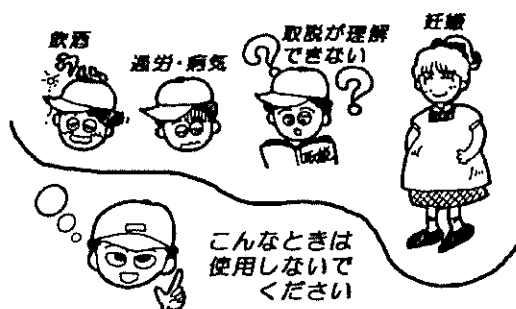
機械を他人に貸すとき、または他人に運転をさせるときは、運転の仕方を教え、本書も貸与し必ず読んでもらってください。

1. 本機を使用するにあたって

(1) 使用する人の条件

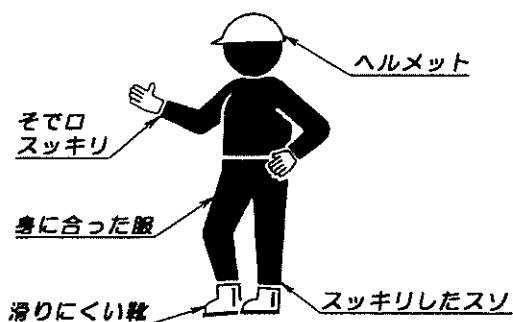
次の項目に該当する場合は本機を使用しないでください。

- 飲酒したとき。
- 過労・病気・薬物の影響・その他の理由により正常な運転ができないとき。
- 妊娠しているとき。
- 取扱方法を熟知していない人。



(2) 使用する人の服装

機械に巻き込まれたり、滑って転倒したりする事故を予防するため、首巻き・腰タオルをしないで、ヘルメット・滑り止めの付いた靴を着用し、だぶつきのない作業に適した服装で安全な作業をしてください。



(3) 適応トラクタ以外への装着厳禁

下記の装着条件に合致するトラクタ以外には装着しないでください。

● 適応トラクタ馬力

型 式	馬 力 kW (PS)
VR-981WXC	24.2~58.8 (33~80)
VC-981WXC	24.2~58.8 (33~80)

- ロワーリンク規格：カテゴリ I・II
- P T O 回転速度：540 min⁻¹(rpm)
- 電源用バッテリー：DC 12V

(4) 装着時の前後のバランス確認

トラクタに装着（連結）した作業機の最大積載状態において、トラクタ前輪にかかる荷重は、総重量の20%以上前輪に作用している必要があります。もし、不足するときはトラクタ指定のフロントウエイトを取付けて、20%以上を確保するか、できなければ装着（連結）しないでください。

(5) バランスウエイトの取付け

トラクタのバランスウエイトは指定された部分に指定されたウエイト以外は取付けしないでください。

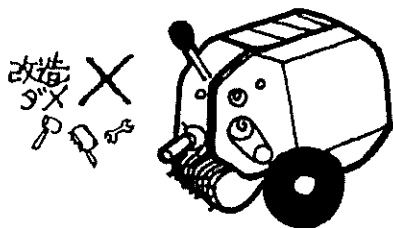


安全に作業するために

(6) 機械の改造厳禁

純正部品や指定以外の部品を取付けないでください。

また、改造をしないでください。



(7) 使用目的以外への使用禁止

本機は稲ワラ、牧草、麦稈等をロール成形する作業を目的として作られた機械です。

他の目的には使用しないでください。

(8) 機械を他人に貸すとき

取扱方法をよく説明して、使用前には『取扱説明書』を必ず読むように指導してください。



2. 点検・整備をしてください

(1) 1年毎の定期点検・整備を

整備不良による不具合や事故を防止するために、1年毎に定期点検・整備を受け、機械が最良の状態で作業ができるようにしてください。

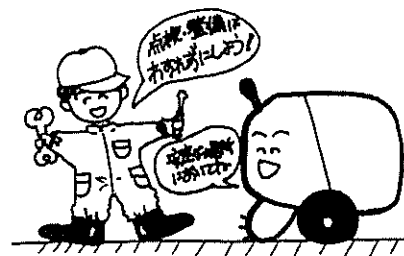


(2) 作業前の点検・整備を忘れずに

ご使用になる前と後には必ず点検・整備を行ってください。

(3) 点検・整備・掃除をするとき

点検・整備・修理・掃除をするときは、交通の危険がなく、機械が転倒したり、動いたりしない平坦で安定した場所で、P T Oを切り、トラクタのエンジンを停止させ、駐車ブレーキまたは車止めをしてから行ってください。



(4) ナイフに注意すること

ナイフ類は、絶対に素手で触れないでください。必ず手袋などの保護具を着用してください。



(5) 機械を常にきれいに

火災予防と性能維持のため、回転部への草などの巻付きやたまりを取除き、機械を常にきれいにしてください。



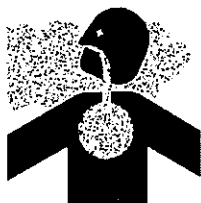


安全に作業するために

(6) 排気ガスには十分注意

屋内などでエンジンを始動するときはエンジンの排気ガスによる一酸化炭素中毒の恐れがあります。

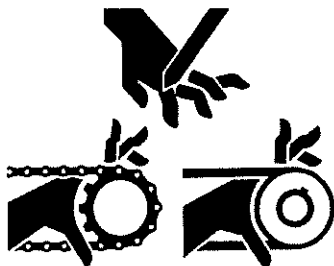
エンジンの始動は、風通しのよい場所で行い、やむをえず屋内で始動する場合には、十分換気を行ってください。



(7) カバー類を必ず取付ける

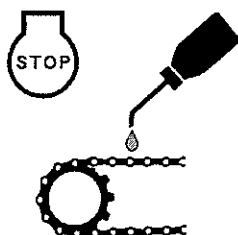
カバー類などの防護装置を取外すときは、必ずP T Oを切り、エンジンを止めてから行ってください。

また、取外したカバー類は必ず元どおりに取付けてください。守らないと、傷害事故を引き起こす恐れがあります。



(8) 注油・給油するときは

チェーンへの注油は、必ずP T Oを切り、エンジンを止めてから行ってください。

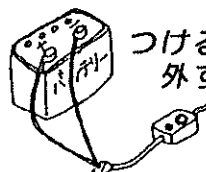


また、油圧パッケージへの給油は、高温のときには行わないでください。

(9) コントロールボックスの電源脱・着は トラクタのバッテリーより電源を取り 出します。

その取付け方法は、(+) 側から行ってください。

外す時は、(-) 側から行ってください。逆にすると火花が飛び危険です。



つける時は (+) 側から
外す時は (-) 側から



(10) クローラの点検・修理をするときは

①ゴムクローラが緩んだまま使用すると、走行中にクローラが外れるおそれがありますので、定期的に点検を行ってください。

②ゴムクローラの張り調整は、規定の方法に従い行ってください。

③タイヤに傷があり、その傷がコード(糸)に達している場合は使用しないでください。

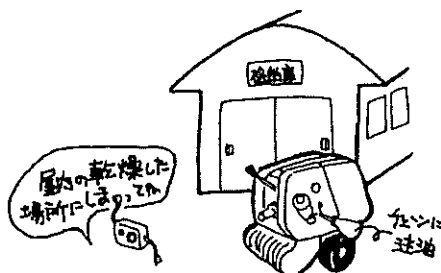


安全に作業するために

(11) 長期格納するとき

機械を清掃し、回転部及びチェーンには十分注油して、屋内の平坦な場所に保管してください。

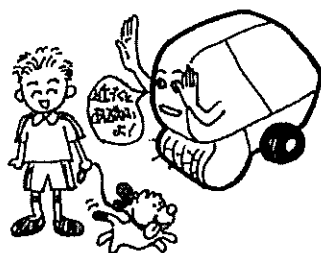
コントロールボックスはトラクタより取外して屋内の乾燥した場所に保管してください。



3. 作業・移動をするときは

(1) 人や動物を近づけない

特に子供には十分注意し、近づけないようにしてください。

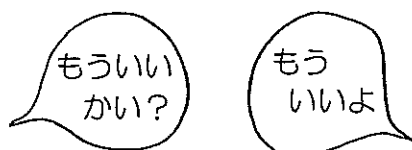


(2) PTO回転中は危険です

回転部には近寄らない、触らないを守ってください。

(3) 二人以上で作業するときは

二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。



(4) エンジンを始動するときは

PTOを切り、変速レバーを中立にし周囲の人に合図をして安全を確かめてからエンジンを始動してください。守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。

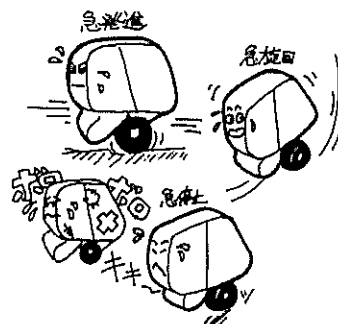
安全確認



(5) 急な発進・停止・旋回・スピードの出しすぎ禁止

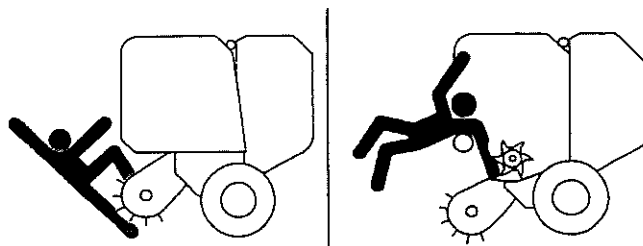
スピードの出しすぎ、急な発進・停止・旋回は、事故の原因となるだけでなく、機械の寿命も縮めますので行わないでください。

また、起伏の多いほ場や傾斜地は、危険です。作業スピードは極力落として作業を行ってください。



(6) 回転中のピックアップドラムやタイトバーには触れない

回転しているピックアップドラムやタイトバーに、手や足で絶対に触れないでください。巻き込まれ重傷を負うことがあります。



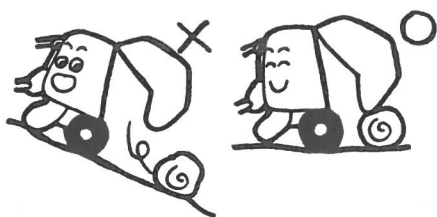


安全に作業するために

(7) 傾斜地で作業するときは

次のことを必ず守ってください。

- ①等高線に平行、または斜めに走行すると横転の危険があります。
斜面の作業は、必ず等高線に対して直角方向に走行してください。
- ②傾斜地で旋回するときは、速度を落とし、急ハンドルを切らないでください。
守らないと、転倒する危険があります。
- ③傾斜地でのバール放出は、谷側にバールが転動して危険です。必ず平坦地まで移動して、安全な場所に放出してください。



(8) 移動及び作業の旋回のときは

トラクタに本機をけん引して旋回するときは、内輪差が生じるので十分注意してください。急旋回は危険ですので行わないでください。



また、凸凹やカーブの多い所では絶対に高速走行をしないでください。ハンドル操作ができなくなる恐れがあります。

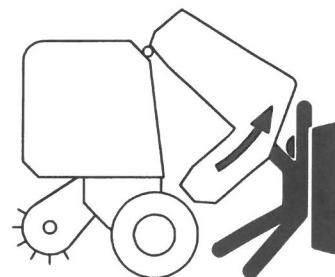
(9) シェアボルトの交換や巻き付き草などを取り除くときは

P T Oを切り、エンジンを必ず止め、回転部が完全に停止してから行ってください。



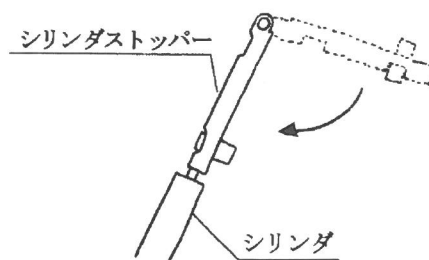
(10) バールを放出するときは

バールの放出は、後方に人がいないことや、障害物のないことを十分確認し、放出距離を考慮して放出してください。

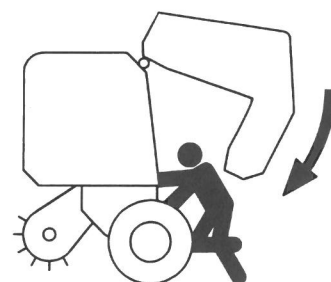


(11) チャンバーを開けて作業するときは

シリンダストッパーを必ず左右共にセットしてください。



守らないと傷害事故を引き起こす恐れがあります。

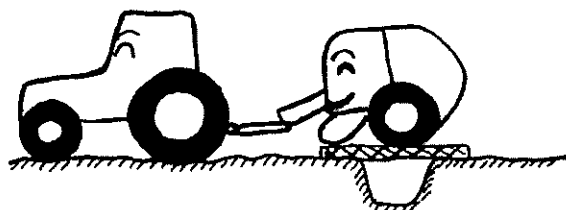




安全に作業するために

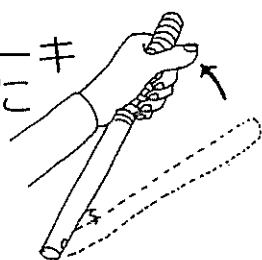
- (12) 溝や畦を横断したり軟弱な所を通るときは

スリップや転倒による事故を防ぐために、幅・長さ・強度が十分あるスリップしないアユミ板をかけ、最低速度で通ってください。



- (13) 作業途中で運転席より離れるときは平坦な場所に停止し、PTOを切りエンジンを止め、駐車ブレーキを掛け、本作業機側に車止めをしてください。

駐車ブレーキ
も忘れずに

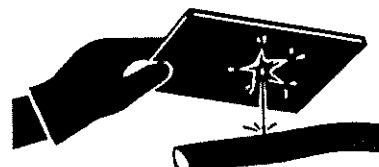


- (14) 高圧油に注意してください

- ①圧力がかかり噴出した油は、皮膚に浸透する程の力があり、傷害の原因になります。
- ②高圧油による傷害を防止するために配管・ホースなどの取り外し前には必ず残圧を抜いてください。
- ③圧力をかける前に配管・ホースなどは正しく確実に締め付けてください。

- ④非常に小さな穴からの油漏れは、ほとんど目に見えないことがあります。

手で油漏れを探すことは止めてください。必ず、保護メガネをかけ、紙などを使用して調べてください。



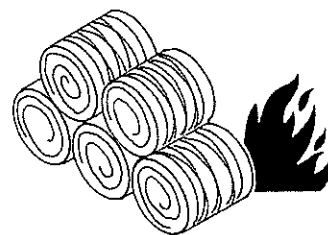
- ⑤万一、油が皮膚に浸透したときは、強度のアレルギーを起こす恐れがあるので、すぐ医師の診療を受けてください。



- (15) 乾草火災に注意

乾燥不十分な牧草をロールバールに成形すると、ロールバール内部からの発火により火災が発生する危険があります。

ロールバール成形後2～3日間は、風通しの良い屋外に仮置きした後、屋内に収納してください。





安全に作業するために

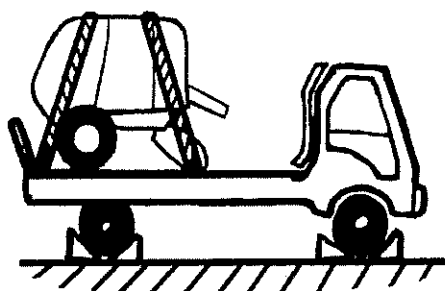
4. 道路走行・輸送するときは

(1) トラクタに装着しての公道走行禁止

トラクタに本機を装着して公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。トラクタに装着しての走行はしないでください。

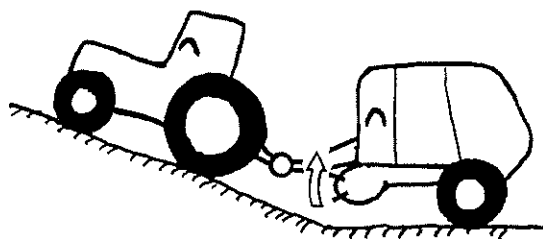
(2) トラックなどへの積み込み・積降ろしは

平坦な場所でトラックが移動しないようエンジンを止め、サイドブレーキをかけ、車止めをしてください。積込んだ機械は車止めをし、強度が十分にあるロープで確実に固定してください。



(3) ピックアップを上げる

特にほ場から出入りの場合、ピックアップの破損事故が起こりやすいので最も上げた状態にしてください。



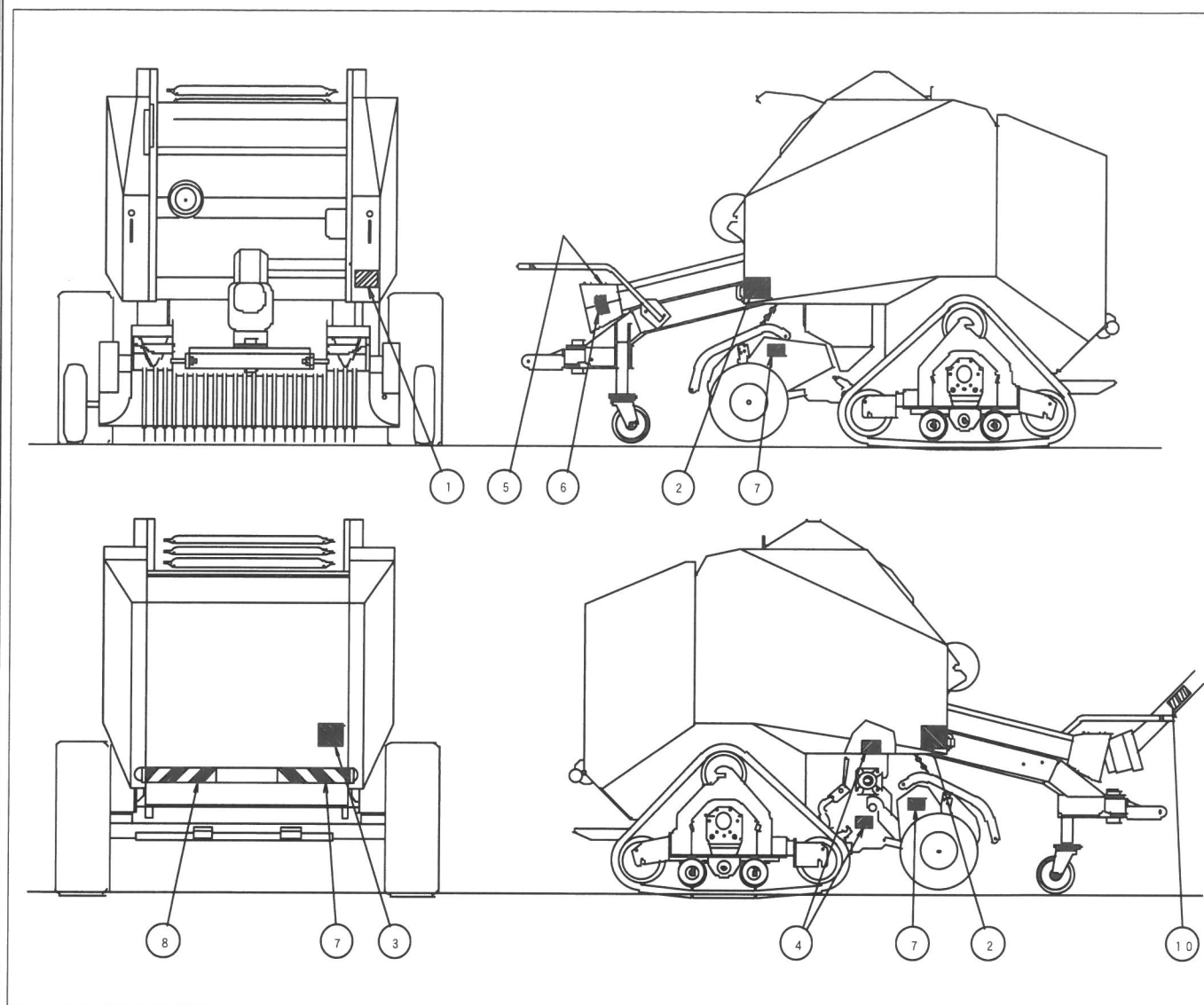
以上、機械の取扱で注意していただく主だった事項を記載しましたが、これ以外にも

本文の中で  印を付けて安全上の注意事項を表記しております。



安全に作業するために

5. 警告ラベルの貼付け位置



①部品コード 00120-4501-330

②部品コード 00120-6000-180

注 意

1. 取扱いを誤ると事故や故障の原因となりますので、必ず取扱説明書を熟知するまでお読みください。

2. 全部のラベルが所定部分に貼付けられているようにしてください。

3. エンジン始動前に機械の周りに人がいないことを確認してください。

4. 作業中は人や動物を近づけないでください。

5. 運転席を離れるときは、必ず

エンジンを停止し、駐車ブレーキをかけてください。

6. 斜面での駐車時は歯止めをしてください。

7. 点検・調整等はエンジンを止めて実施してください。

8. 手、足及び衣服を運動部分に近づけないようにしてください。

9. 保安基準を満たさない限り公道走行はできません。

危 険

・ワラ、牧草等を手や足で本機に入れる事は絶対にやめてください。

・動力の伝達部、回転部に手足や衣服等を絶対に近づけないでください。

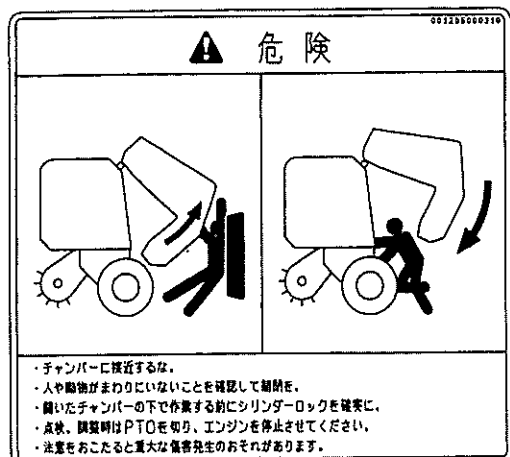
・PTOを切り、エンジンを停止させ、完全に回転が止まるまでは触れないでください。

・注意をおこたると重大な傷害発生のおそれがあります。

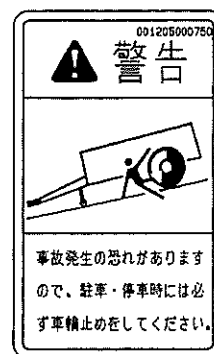


安全に作業するために

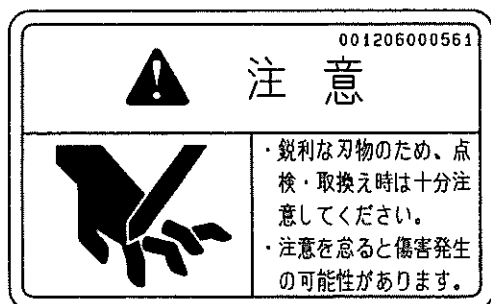
③部品コード 00120-6000-160



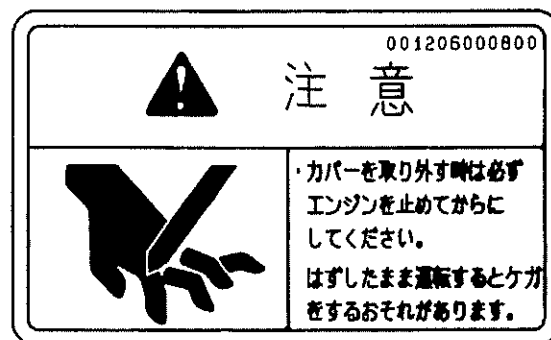
⑥部品コード 00120-6000-750



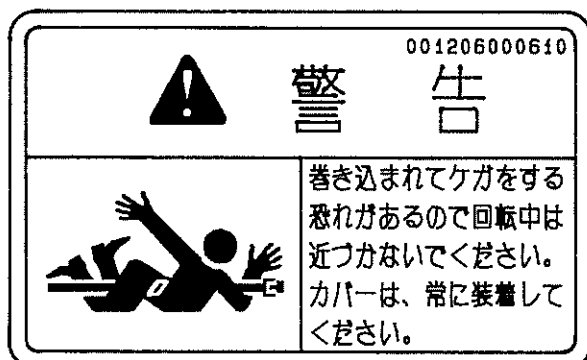
④部品コード 00120-6000-561



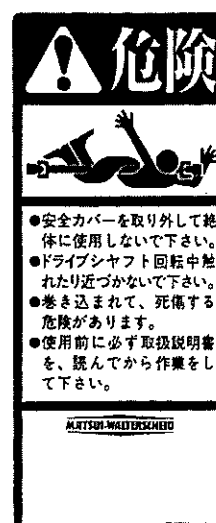
⑦部品コード 00120-6000-800



⑤部品コード 00120-6000-610



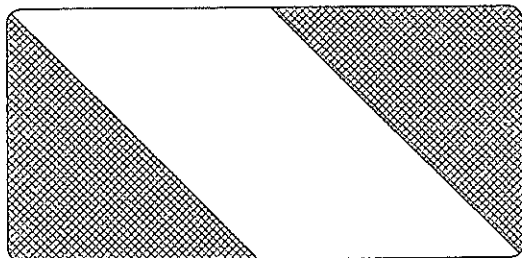
⑧部品コード 00130-6951-010



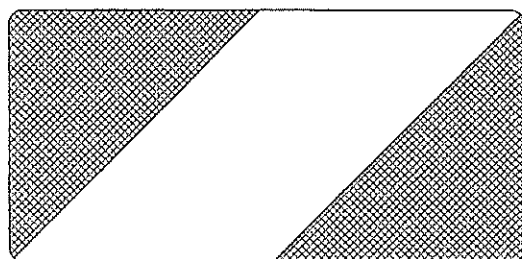


安全に作業するために

⑨部品コード 00130-6000-370



⑩部品コード 00130-6000-380



警告ラベルの取扱い注意事項

- (1) 警告ラベルはいつもきれいにして傷をつけないように、また汚れている場合、中性洗剤で洗い、軟らかい布で水気を拭いてください。
- (2) 傷ついたり、汚れたり、はがれた場合は、お買い上げの販売店又は当社に注文し新しいラベルを元の位置に貼ってください。
(ラベルをご注文の際は部品コードをご連絡ください。)
- (3) 警告ラベルが貼ってある部品を交換する場合は、新しいラベルを注文して元の位置に貼ってください。
- (4) 新しいラベルを貼る場合は、汚れを拭き取り、乾いた面に貼ってください。
気泡は隅の方へ押しながら抜いてください。

本製品の使用目的とサービスについて

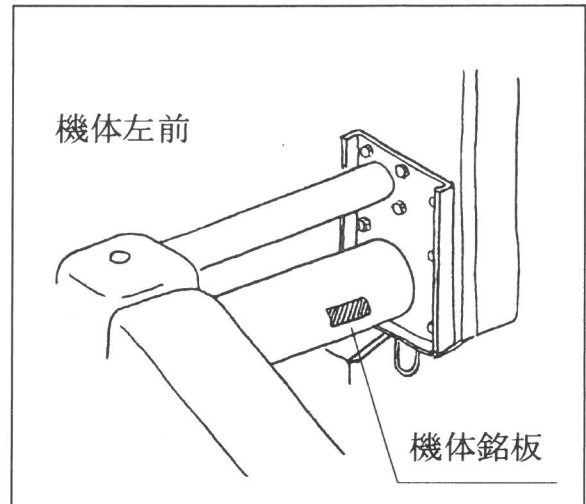
本製品の使用目的について

本製品は、稲ワラ、牧草、麦稈等をロール梱包する作業にご使用ください。
使用目的以外の作業や改造などは、決して行わないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりません。

アフターサービスについて

機械の調子が悪いとき、不調診断に従って点検・処置しても、なお不具合があるときは、お買い上げいただいた販売店、農協、または、お近くの当社営業所までご連絡ください。

(機体銘板貼付け位置図)



【連絡していただきたい内容】

- 品名と型式
- 機体 No. (SER-No.)
- ご使用状況は？
(どんな条件でどんな作業をしていたときに)
- どれくらい使用されましたか？
(約〇〇アール、または約〇〇時間使用后)
- 不具合が発生したときの状況をできるだけ詳しく教えてください。

※機体Noは、上図に示す機体銘板に打刻しております。

【今後参考のため、次の空欄に機体 No. などを記入しておいてください。】

品 名	クローラロールベアラ	クローラロールベアラ
型 式	VR-981WXC	VC-981WXC
機 体 No. (SER-No.)		
購入年月日	年 月 日	
販売店名	TEL : ()	

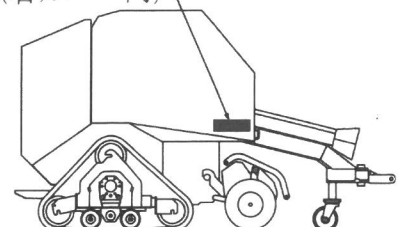
車台番号について

本製品には、上記機体 No. と関連させて機械の同一性を管理する車台番号が打刻されています。
打刻位置と打刻形式は右図を参照ください。

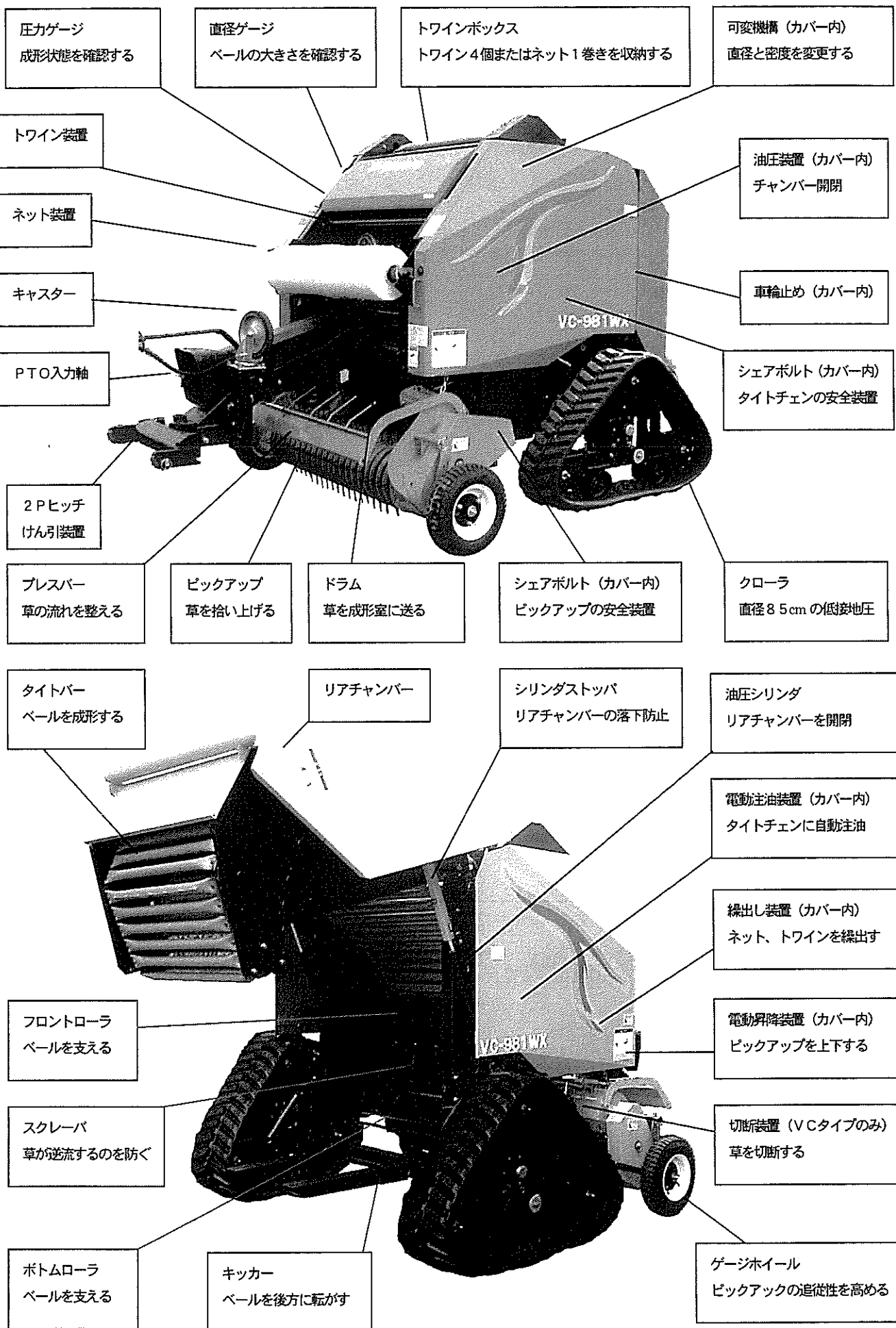
車台番号
VR-981C-****

車台番号打刻位置

フロントケース右下(右カバー内)

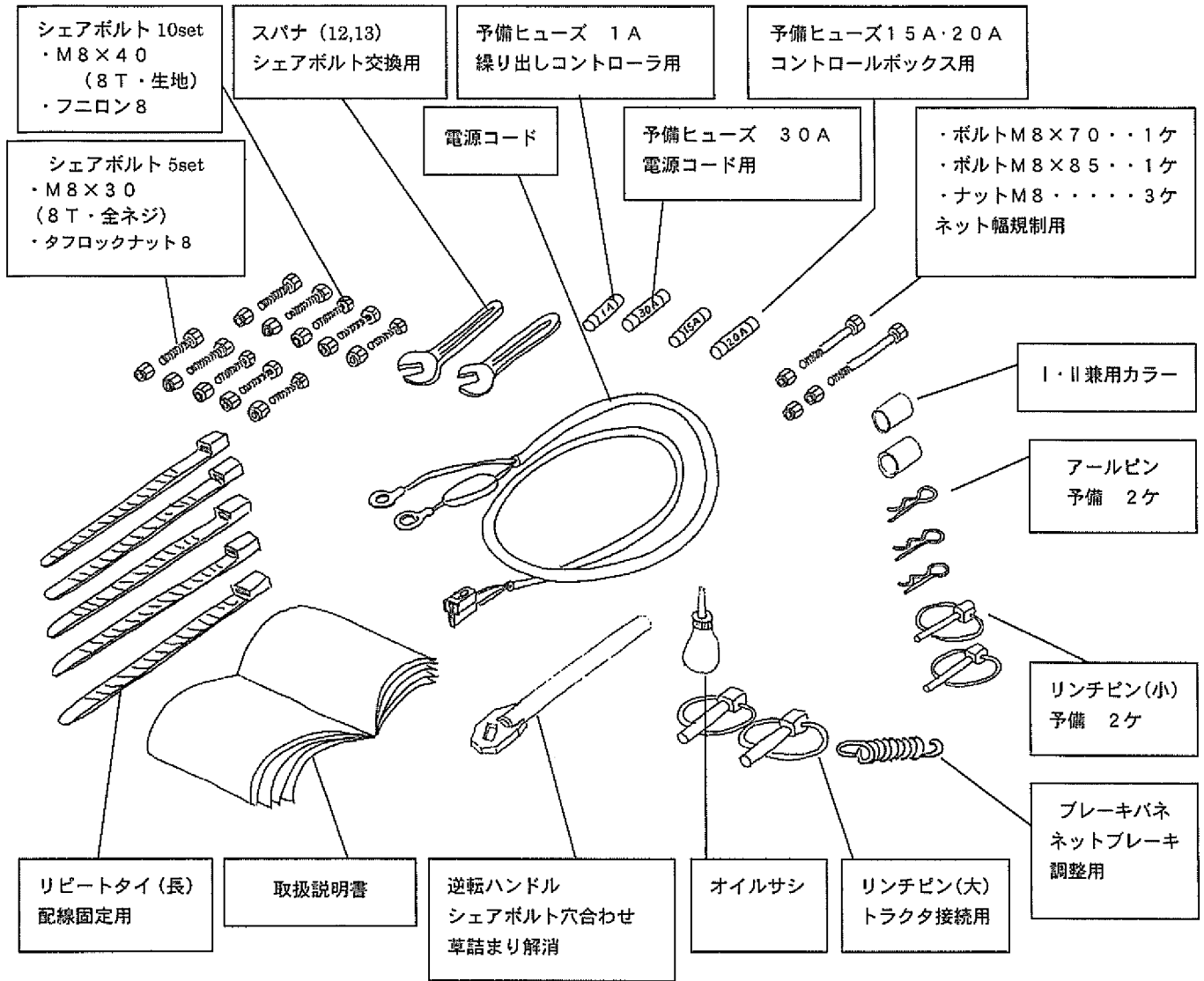


各部の名称とはたらき



各部の名称とはたらき

付 属 品



トラクタへの装着

警告

- トラクタへの本機の装着は平坦で安定した場所で行ってください。
- 二人以上の共同作業では、お互いに声を掛け合うなどして、安全を確かめ合いながら作業してください。
- ユニバーサルジョイントは、必ずトラクタのエンジンを止め、P T Oを切ってから確実に接続をしてください。

以上のことを守らないと傷害発生の恐れがあります

1. 装着のしかた

◆装着順序

左ロワーリンク、右ロワーリンクの順序で取付けてください。

カテゴリⅡのトラクタには付属のⅠ・Ⅱ兼用カラーを取付けてください。



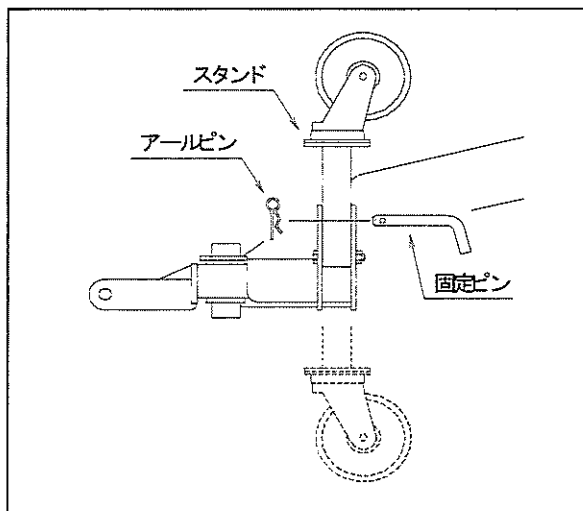
Ⅰ・Ⅱ兼用カラーを

◆チェックチェンで横振れ調整

運転時および作業時、本機の横振れを防止するために、チェックチェンでトラクタ中心にロワーリンクが左右に2～3 cm程度の振れになるよう、調整してください。

◆スタンドを上げる

ロワーリンクでヒッチを少し上げてからスタンドを上げてください。



2. ユニバーサルジョイントの取付け

◆取付け順序

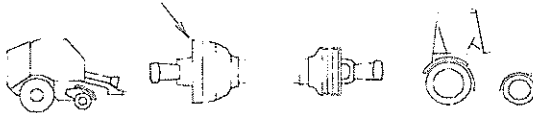
本機入力軸に取付けてから、トラクタP T O軸に確実に取付けてください。

注意

本機側は広角ジョイントです。

逆に取付けるとジョイントが破損する恐れがあります。

広角ジョイント



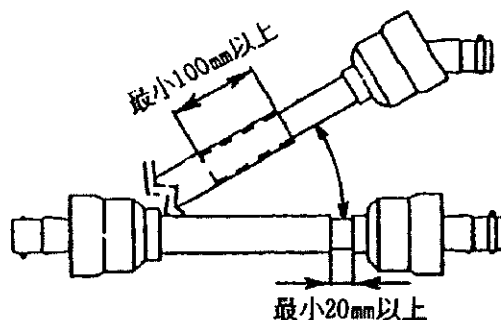
◆ユニバーサルジョイントの長さ確認

ジョイントの長さはロワーリンクによる本機の上昇・下降により変化します。先にジョイント長さが長すぎないかを確認してください。

長すぎるときは、下図の寸法が確保できるように切断してください。

注意

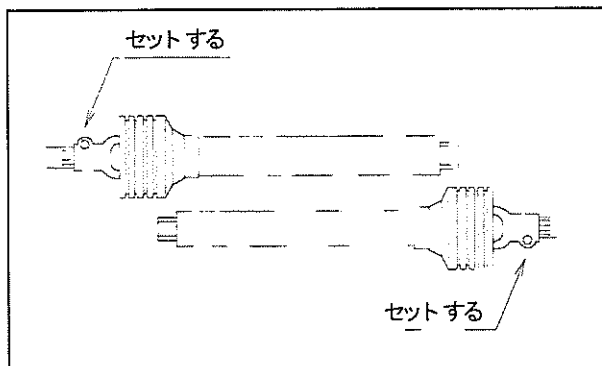
ジョイントが長すぎるとジョイントがスライドせず、突き上げてミッションを破損させる恐れがあります。



トラクタへの装着

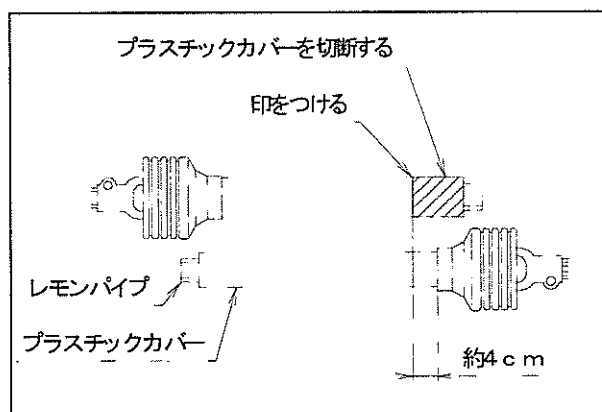
◆ユニバーサルジョイントの切断方法

- ①ユニバーサルジョイントの半分づつをトラクタと作業機にセットします。

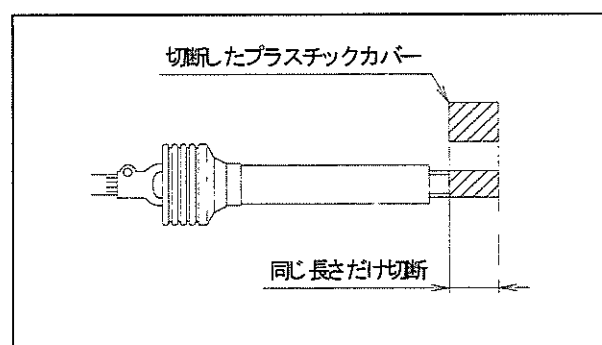


- ②ロワーリンクを上下して一番短くなる場所で互いに合わせます。

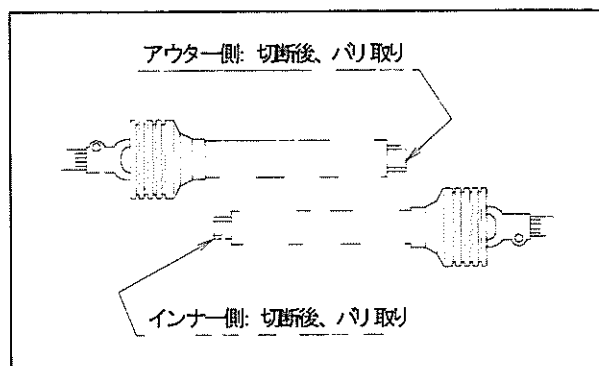
- ③プラスチックカバーの重なりより約4 cm内側に印をつけ、ユニバーサルジョイントを外します。



- ④印をつけたところからプラスチックカバーを切断します。
切断したプラスチックカバーと同じ長さだけ、もう一方のプラスチックカバーとレモンパイプの OUTER、INNER をそれぞれ切断してください。



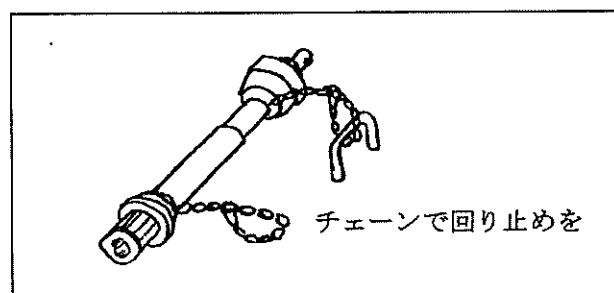
- ⑤アウター、インナー両方ともバリ取りを行い切り粉を掃除した後、スムーズにスライドすることを確認してください。



- ⑥インナーの外側にグリスを塗って再度組んでください

◆カバー回転止めチェーンで固定を

ユニバーサルジョイントのカバーが回転しないように、チェーンに余裕をつけて、しっかりと固定してください。



トラクタへの装着

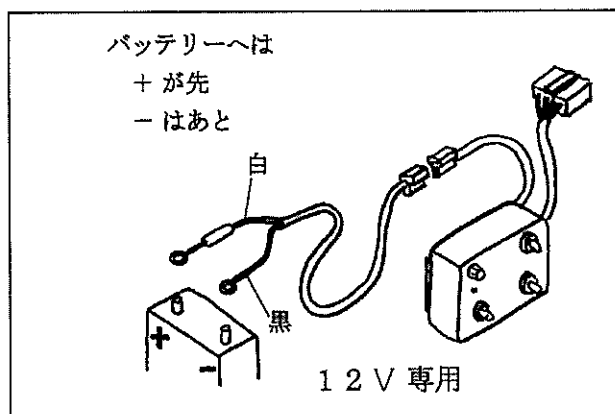
3. コントロールボックスの接続

- ◆電源はトラクタのバッテリーから取ります

コントロールボックスの電源は、トラクタのバッテリーより取ります。

- ◆接続できるバッテリーの電圧は12Vです。

24Vのバッテリーに接続しないでください。間違えて接続すると、コントロールボックス内部及び電気系統が破損する恐れがあります。



- ◆ (+)、(-) の接続を間違えないように
白色線はバッテリーの (+) へ接続
黒色線はバッテリーの (-) へ接続

注意

(+)、(-) の接続を間違えると、コントロールボックスの電源ランプは点灯しません。

警告

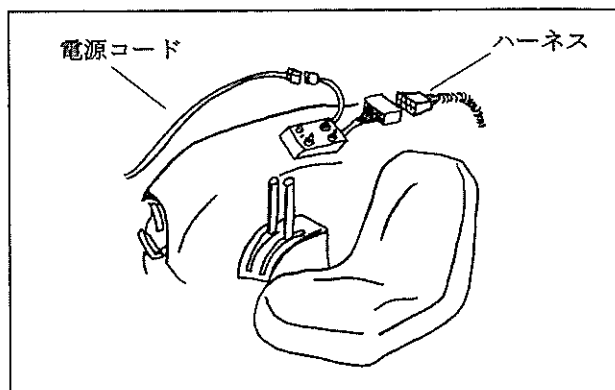
接続の順序は、(+) 側から行ってください。

また、取外すときは、(-) 側から行ってください。

逆にすると、火花が飛び危険です。

- ◆コントロールボックスの取付け
コントロールボックスの裏側に永久磁石が装着してあります。

操作のしやすいように、トラクタの運転席右側の金属製フェンダー等に吸着させてください。



- ◆配線の接続

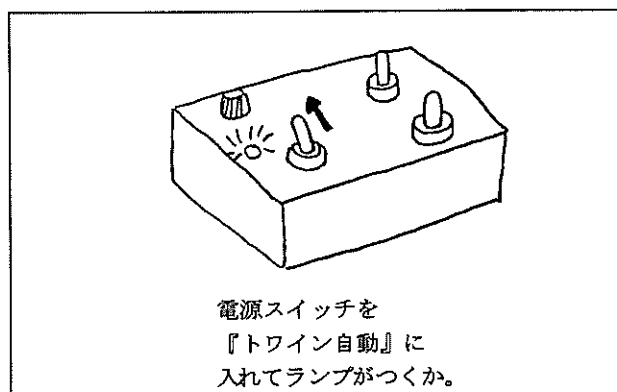
電源コードとハーネスをそれぞれコントロールボックスに接続します。

配線が作業の邪魔にならないようにトラクタに固定してください。

- ◆電源スイッチを入れる

電源スイッチを『トワイン自動』の方に入れてください。

電源ランプがつかないときは、コントロールボックス内のヒューズ、電源コードのヒューズが切れていないか、バッテリーの (+) と (-) が逆になっていないか、コネクタがきちんと差し込まれているかを確認してください。



- ◆作業終了後は取外して屋内に保管

作業終了後は、電源コード側のコネクタより切り離し、水等がかからない屋内に保管してください。

運転に必要な装置の取扱い

1. 油圧装置

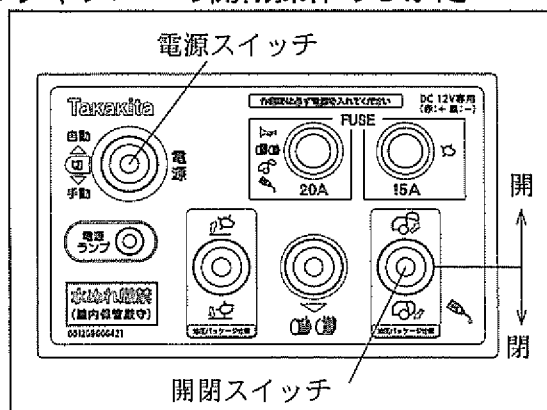
◆チャンバー開・閉の油圧装置です

本機は、ポンプ・タンク・バルブ一体型の油圧パッケージを装備しています。

◆P T Oが回転している間は作動します

油圧パッケージは、P T Oが回転している間、油圧力が発生し、P T Oの回転が止まっていると油圧力は発生しません。

◆チャンバーの開閉操作のしかた



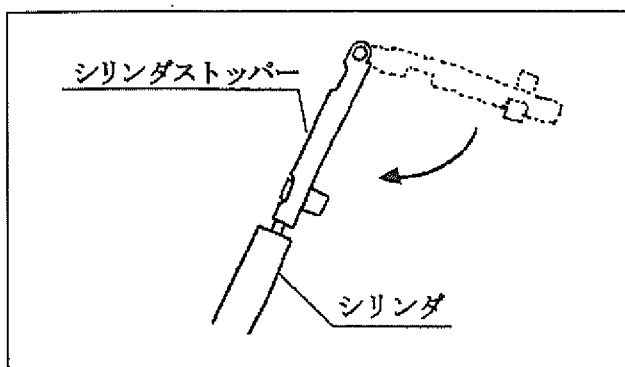
電源スイッチをトワイン自動に入れて、トラクタのP T Oを回転させます。

開閉スイッチを向こう側に倒すとチャンバーが開き、手前に倒すと閉じます。

閉じる時はチャンバーロックを確実にするため、チャンバーが閉じた後、もう一度開閉スイッチを手前に操作してください。

◆開けたままでロックするときは

点検・整備等でチャンバーを開けたままで作業するときは、左右共必ずシリンダストッパーをセットしてください。



⚠ 注意

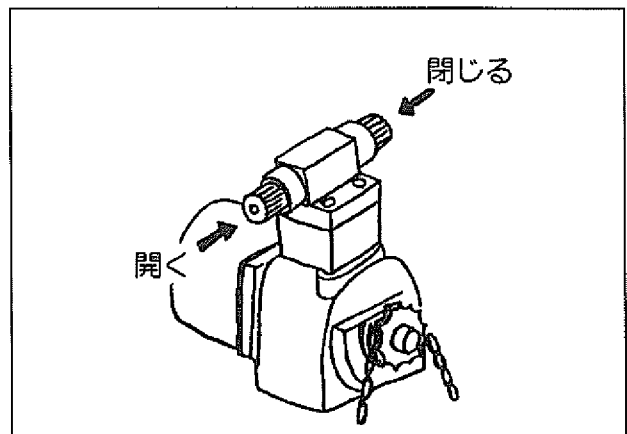
左右共必ずシリンダストッパーをセットしてください。

チャンバーを開けた状態での油圧装置の点検整備は、絶対に行わないでください。

これを怠ると重大な傷害事故につながる恐れがあります。

◆電装がトラブルを起こした場合

電源スイッチを必ず切ってからP T Oをゆっくり回転させ、先のとがったもので手動スイッチを押してください。



注意

本機はパイロットチェック弁を装備していますので、閉じる際にもP T Oを回転させていないと動作しません。

⚠ 警告

この作業を行う場合、必ず二人で合図をしながら、慎重に行ってください。
これを怠ると傷害を発生する恐れがあります。

運転に必要な装置の取扱い

2. コントロールボックスの取扱い

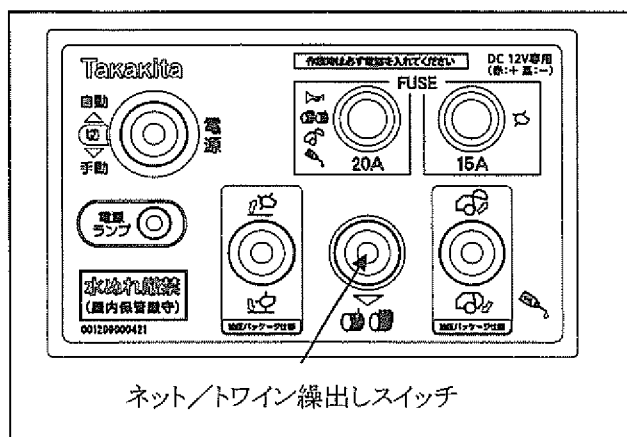
◆自動繰出しで使ってください

成形されるロールが、設定された圧力になるとブザーが鳴り、約2秒後に自動的にネットまたはトワインを繰出します。

◆手動で繰り出すとき

作業の途中で巻付けを行いたい時は、コントロールボックスの繰出しスイッチを操作してください。

ブザーが鳴り、約2秒後にネットまたはトワインが繰出されます。



注意

電源ランプが点灯しないまま作業を行うと、巻付けができないだけでなく機械を破損させる原因となりますので、必ず点灯していることを確認してから作業してください。

◆巻付けをやり直す

コントロールボックスの手動繰出しスイッチを操作すると何度でも繰出しができます。

注意

誤って手動繰出しを行った後、自動繰出しで作業する場合はいったん電源を切ってください。

再度電源スイッチを「自動」の位置にし

てください。

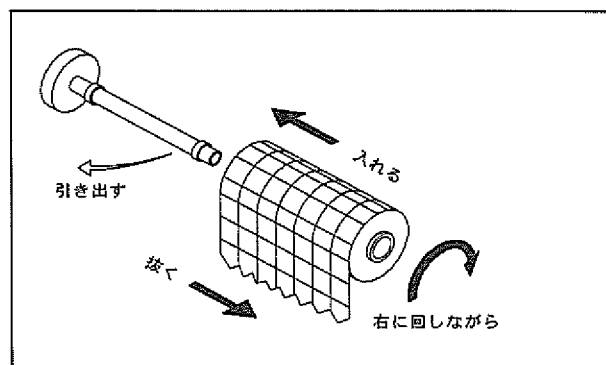
◆作業終了時の収納

作業終了後、コントロールボックスは電源コード側コネクタより切り離し、屋内で水濡れのないよう保管してください。

3. ネットの取付け

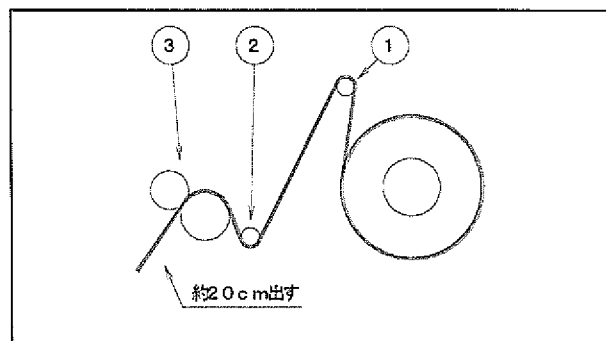
◆ネットを入れる

下図のようにネットを入れてください。ネットの端はあらかじめ20cmほど引き出しておきます。



◆ネットを通す

①～③の順に束ねて通してください。ネットは自動的に広がります。通し終わったら、たるみを取りながら本体にセットしてください。

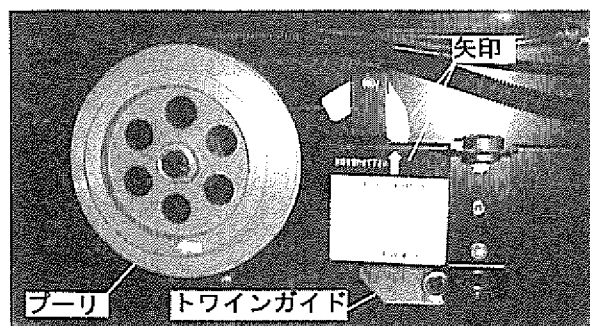


◆トワインガイドの位置を確認する

トワインガイドが次図の位置にあるかを必ず確認してください。

位置が違っていれば、プーリを回してトワインガイドをいったん左側に動かしてからマークの位置にくるようにしてください。

運転に必要な装置の取扱い

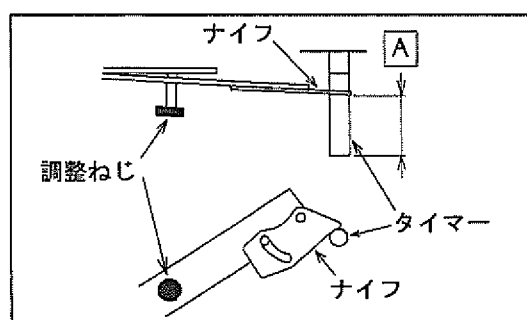


注意

トワインガイドの位置が間違っているとネットが切断されません。

◆巻き数を設定する

ネットの巻き数は右カバー内にある調整ねじで無段階に調整できます。調整ねじを締めると少なく、緩めると多く巻けます。



ナイフをタイマーに乗せた時、**A**の長さを希望する巻き数に調整してください。下表は**A**の長さとの巻き数の目安です。

例えば直径90cmで2.5回巻きにしたい場合は28mm、直径100cmで3回巻きにしたい場合は39mm、という具合です。

直径 cm	巻き数(回)			
	2	2.5	3	3.5
90	21	28	35	42
95	22	30	37	44
100	24	32	39	47

禁止

ナイフにオイル・グリスを塗布するとホコリ等が付着し動きが悪くなります。塗布しないでください。

◆巻ける個数

1巻きのネットで巻けるロール個数の目安は下表の通りです。

例えば直径90cmの2.5回巻きでは約280個、直径100cmの3回巻きでは約210個という具合です。

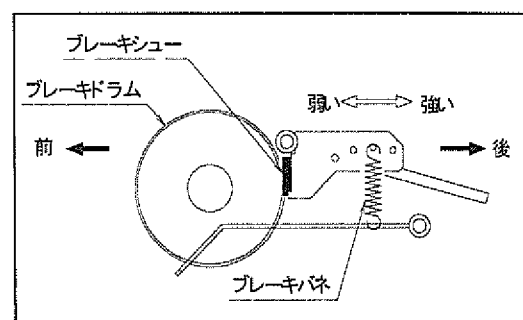
φ cm	(2回)	2.5回	3回	3.5回
90	350	280	230	200
95	330	260	220	190
100	310	250	210	180

注意

巻き数はPTOの回転速度で増減しますので、出来上がったロールを見ながら設定値を決めて下さい。

◆ブレーキ力を調整する

- ・ブレーキが弱いとネットが広がらず、強いと切れやすくなります。
- ・ブレーキ力は、ネットの後ろ側にあるブレーキバネで調整します。
- ・ブレーキバネを下図のように切れやすい時は前(弱い)へ、広がらない時は後ろ(強い)へ、かけかえてください。
- ・それでもネットが切れる場合は付属のブレーキバネに交換してください。
- ・ネットロールを前に出すと簡単に調整できます。

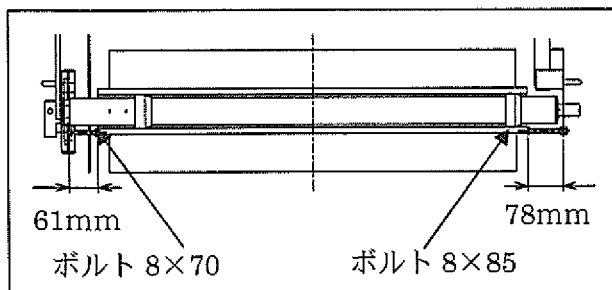


注意

ブレーキドラムが錆びていると最初の数ロールはネットが切れやすくなります。また、ブレーキシューの減りが早くなります。

運転に必要な装置の取扱い

- ◆90cm幅のネットを取り付ける場合
付属のボルト・ナットを使用し、ボルトの頭がネットの紙筒に軽く接触するように取り付けてください。



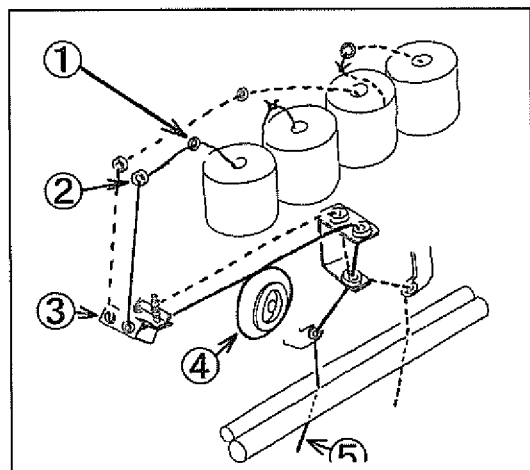
正面視

ボルト頭から取り付け部までの寸法を示しています。上記寸法は参考です。現物に合わせて調節してください。

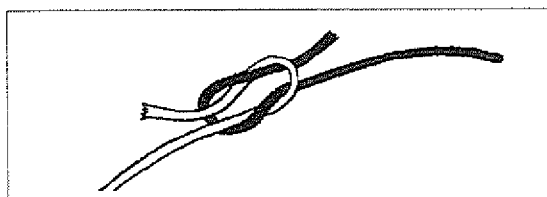
4. トワインの取付け

◆トワインボックスにセット

トワインをトワインボックスにセットし、①～⑤の順に通してください。



①図のようにトワインを結びます。

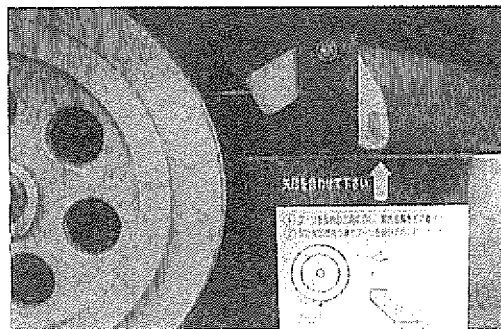


- ②ガイドに通します。
- ③ブレーキ金具に通します。
- ④段付きプーリに1回巻付けます。
- ⑤繰出しローラに通します。

ローラの間から約20cmトワインが出るように入れてください。

◆トワインガイドの位置を確認する

トワインガイドが右上図の位置にあるかを必ず確認してください。



◆巻付けピッチを調整する

草の種類、長さに応じて変えてください。トワインを段付きプーリの大きな方に巻きつければ狭く巻け、小さな方にすれば広く巻けます。

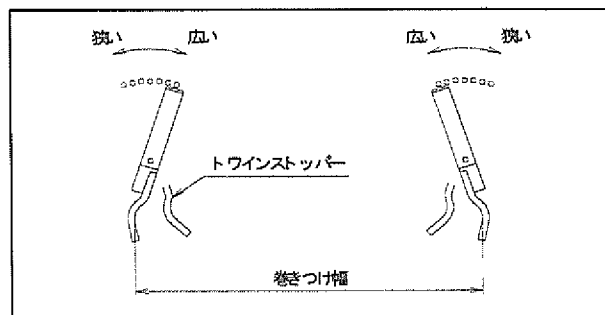
段付きプーリ径	大	小
巻付けピッチ	狭い	広い
成形する草の長さ	短い草	長い草
2巻で巻ける個数	約110個	約140個

注意

プーリには時計方向に1回だけ巻きつけてください。

◆巻き幅を調整する

トワイン装置の奥にあるトワインストッパーを希望する巻き幅に移動してください。



◆トワインのブレーキ調整

トワインの材質により、段付きプーリでトワインが滑るときは、ブレーキ金具のスプリングを締めてください。

運転に必要な装置の取扱い

5. ネット／トワインの選択

◆選択方法

希望する方を繰出しローラに通してください。

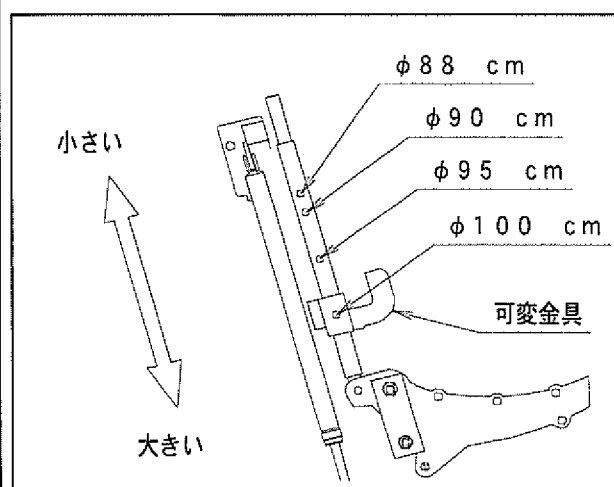
6. ロール直径の設定

◆設定方法

可変金具を左右とも希望する同じ直径の位置に固定してください。

ロール直径は草の水分や梱包密度などで変わることがあります。

また、後作業（ラップマシンやローダの能力など）のことを考えて決定してください。



注意

可変金具が左右異なる位置になっていると機械を破損させる原因となりますので、作業前に必ず確認してください。

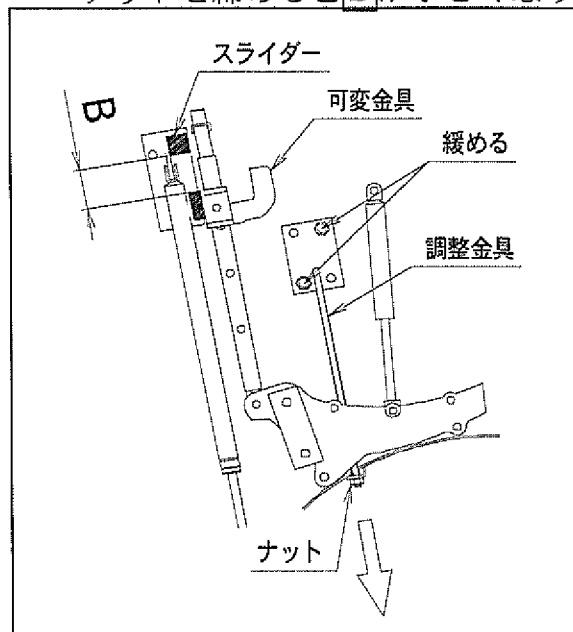
◆隙間調整

可変金具を一番上に固定した状態でスライダーとの隙間Bは左右とも60mmでなければなりません。

タイトチェーンが伸びてくるとロール直径が変わってきます。このため、定期的に張り調整を行う必要があります。新車時は初期伸びが発生しますので、最初の200ロールで張り調整を行っ

てください。

調整金具のボルトを緩めてナットを締めるとBが小さくなります。



注意

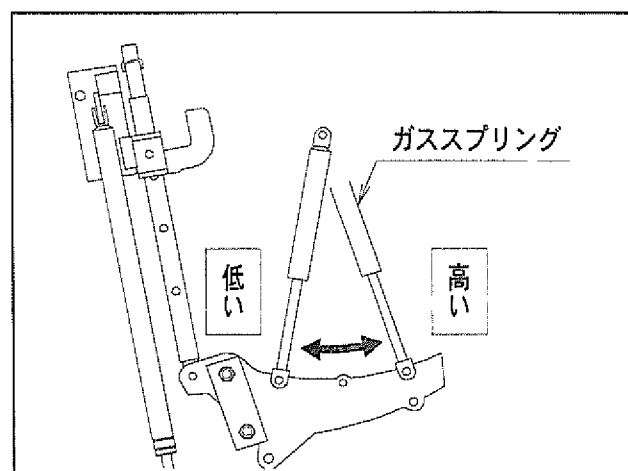
B寸法が小さすぎても大きすぎても機械を破損させる原因となりますので、作業前に必ず確認してください。

使用状況の経過にともないタイトチェーンの伸びを調整金具で張り切れなくなった時の対応については、販売店にご連絡ください。

7. 梱包圧の設定

◆設定方法

ガススプリングを左右とも希望する同じ位置に固定してください。



運転に必要な装置の取扱い

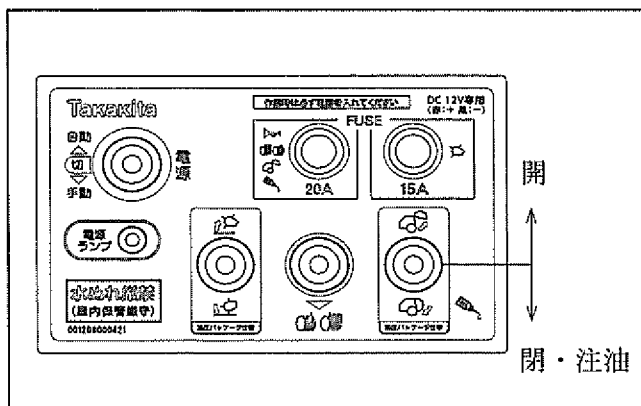
注意

梱包圧が左右異なる位置になっていると機械を破損させる原因となりますので、作業前に必ず確認してください。

8. 自動注油装置の取扱い

◆チャンバー閉スイッチに連動

コントロールボックスの「閉」が押されている間、電動ポンプが作動してタイトチェーンに注油されます。



◆作業中はオイル残量に注意

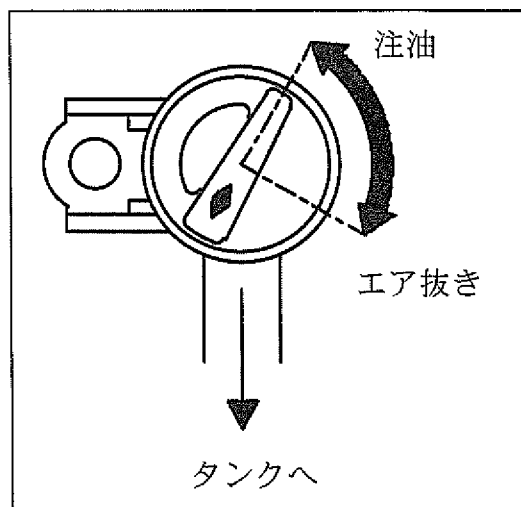
注油タンク内のオイル残量には特に注意して、少なくなれば補給してください。

注意

注油タンクのオイル不足により注油されない状態で作業すると、機械の寿命を著しく低下させますので、無注油状態での使用は絶対に行わないでください。

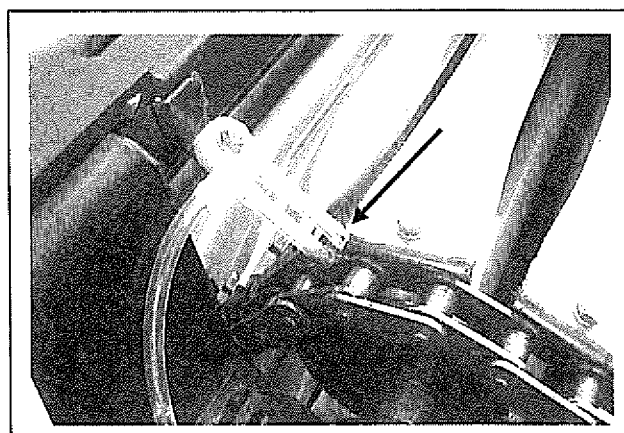
◆電動ポンプのエア抜きを行う

- ①タンクにオイルが入っていることを確認してください。
- ②コックをエア抜き側に回してください。
- ③ホースをタンクより抜き、電動ポンプのコネクタを「エア抜き」と書かれたコネクタに付け替え、オイルが出たら「チュウウ」と書かれたコネクタに戻してください。
- ④オイルが出ている事が確認できたら、ホースを元に戻し、コックを注油側に回してください。



◆定期的にノズルの清掃を行ってください

注油ノズルには草やワラが付着しやすく、そのまま使用されると、チェーンへの注油がされていないことがありますので、定期的にノズル先端部に付着した草やワラを清掃してください。



警告

点検・清掃は必ずエンジンを止めてから行ってください。
これを怠ると傷害発生の恐れがあります。

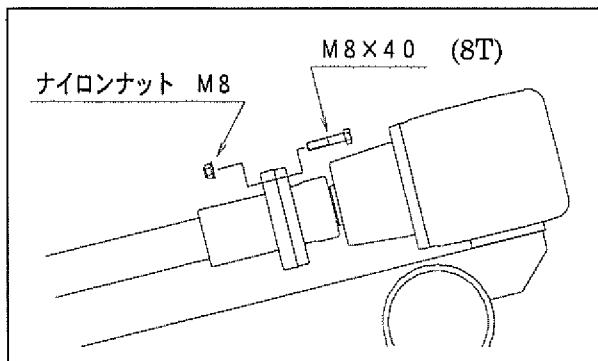
運転に必要な装置の取扱い

9. 安全装置の取扱い

◆シェアボルト

入力部にシェアボルトクラッチを使用しており、大量の草を飲み込んだ時や圧縮しすぎた時などにボルトが切断します。

トラクタのエンジンを停止させ、原因を取り除いた後、復旧させて下さい。
エンジン回転を落としてからゆっくりとPTOをつないでください。



◆シェアボルトがよく切断する場合

ウインドローが大きい場合は、作業速度を遅くしてください。
圧力ゲージが上がり始めたら走行速度を遅くしてください。

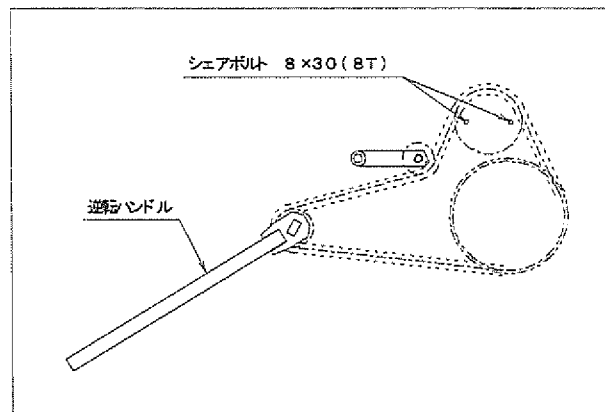
注意

指定サイズ (M8 x 40 - 8T 半ネジ) 以外は絶対に使用しないで下さい。

◆ロールベアラ部のシェアボルト

左側面カバー内にあります。切損した場合、必ずトラクタのエンジンを停止し、付属の逆転ハンドルで穴を合わせてボルトを入れます。

使用するボルトは、M8 x 30 - 8T 全ネジ (2本) のみです。それ以外のボルトを使用すると故障の原因となりますので絶対にやめてください。



警告

シェアボルト交換後は逆転ハンドルを必ず外してください。

これを怠ると傷害発生の恐れがあります。

◆シェアボルトがよく切損する場合

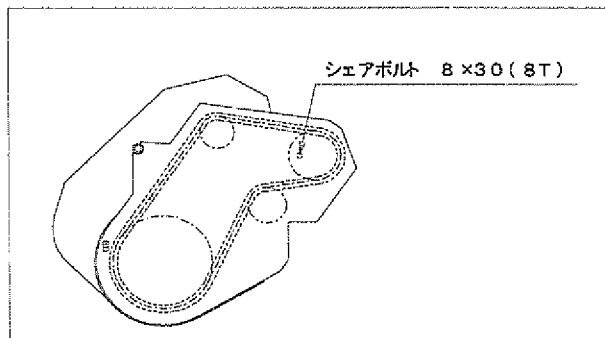
梱包圧を小さくしてください。

(8 ページ参照)

◆ピックアップ部のシェアボルト

ピックアップ左のカバー内にあります。切損した場合、必ずエンジンを停止しピックアップ部の草を取除き、タインを手で回して穴を合わせます。

使用するボルトはM8 x 30 - 8T 全ネジのみです。それ以外のボルトを使用すると故障の原因になりますので絶対にやめてください。



運転に必要な装置の取扱い

◆シェアボルトがよく切損する場合

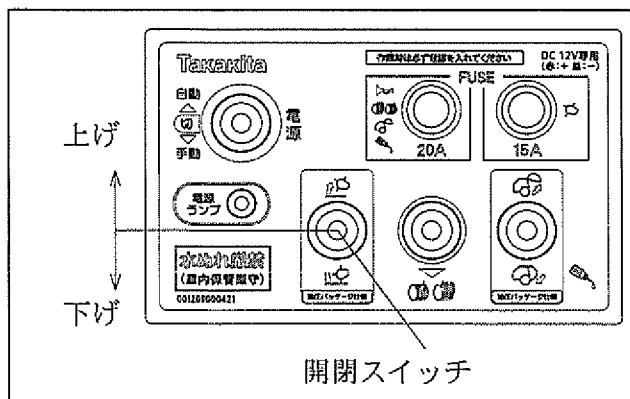
作業速度を遅くしてください。

凸凹の多いほ場では、ローリンクを上げてタイヤが地面と接触しないようにしてください。

10. ピックアップ装置の取扱い

◆電動昇降装置を装備しています。

ピックアップから「カチッ」という音が聞こえるまでコントロールボックスのスイッチを操作し続けてください。



注意

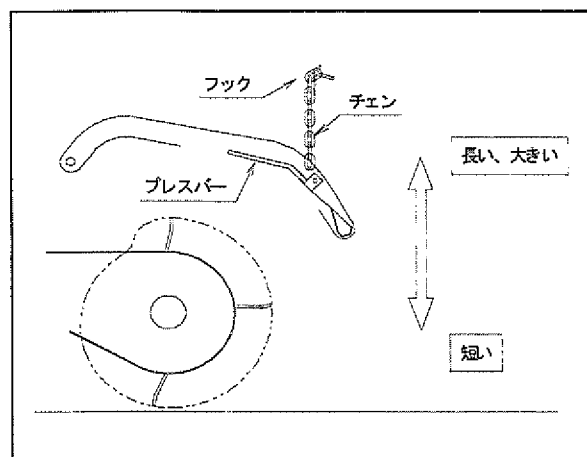
移動時は必ず最上げ状態にしてください。

これを怠ると機械を破損させる原因になります。

◆プレスバーの使い方

チェンをフックから外して高さを調整します。

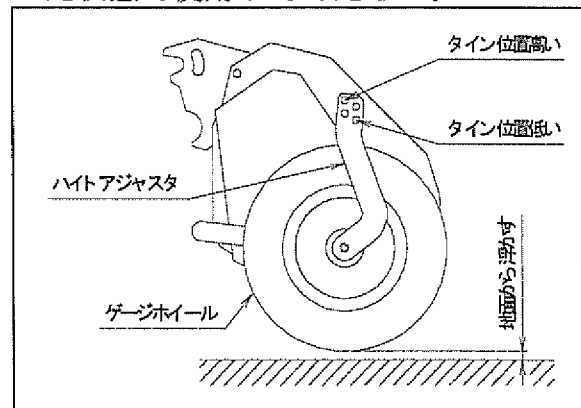
ウインドローの大小、草の長短で位置を決めてください。



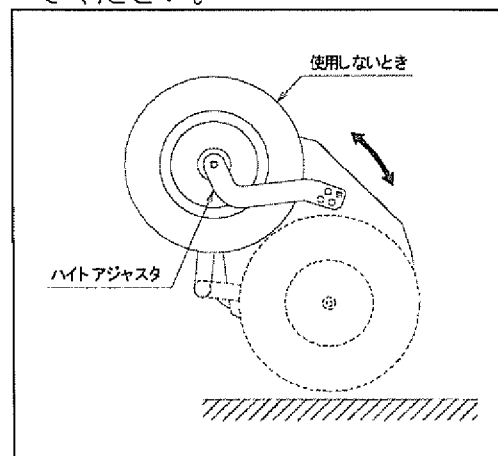
◆ゲージホイールの使い方

ハイトアジャスタを左右とも、希望する同じ高さに固定してください。

ゲージホイールは地面から少し浮かせた状態で使用してください。



ゲージホイールを使用しない時は下図のように、ハイトアジャスタを組み替えてください。



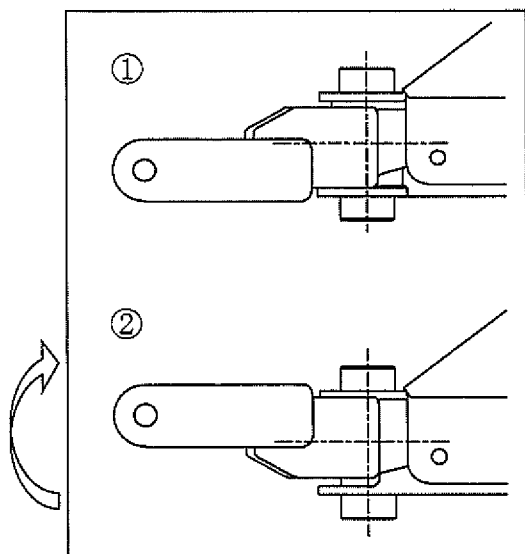
注意

ゲージホイールで草を踏むと、カッティングドラムやピックアップで詰まりやすくなります。

運転に必要な装置の取扱い

1 1. Vヒッチの取扱い

通常、Vヒッチは下図①のようにして使用します。

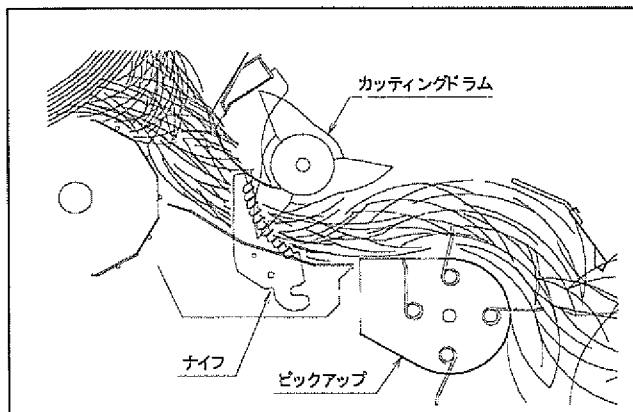


但し、ウインドローが大きく、ロアリンクが作物に引っ掛かってしまっても下げられない場合はVヒッチを上下逆にすることで(上図②)ピックを約3cm下げられます。

1 2. 切断装置の取扱い (V Cタイプのみ)

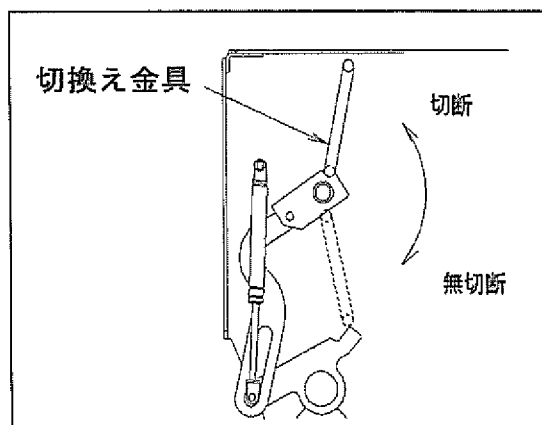
◆切断装置について

図のように草はピックアップより拾い上げられた後、カッティングドラムとナイフの間で切断(理論切断長90mm)されると同時に成形室に送られペールが形成されます。



◆切断/無切断の切換え

本機右下に切換え金具があり、レバーの上下でナイフの出入ができます。

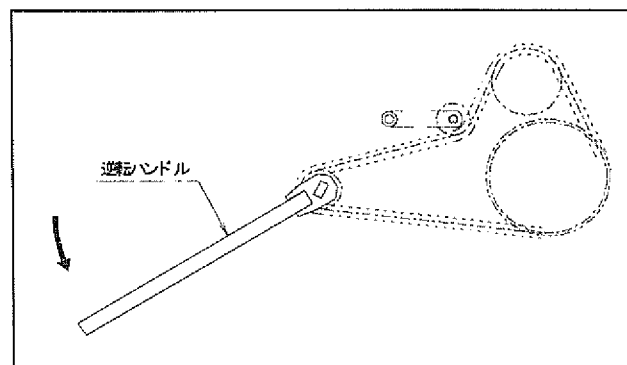


◆詰まったときは

無切断にしてトラクタのエンジン回転を落としゆっくりとPTOをつないでください。

復帰しないときは逆転ハンドルを矢印の方向にまわしてカッティングドラムを少し逆転し、詰まっている草を取り除いてください。

使い終わった逆転ハンドルは必ず外してください。



警告

逆転ハンドルは必ず外してください。
これを怠ると傷害発生の恐れがあります。

注意

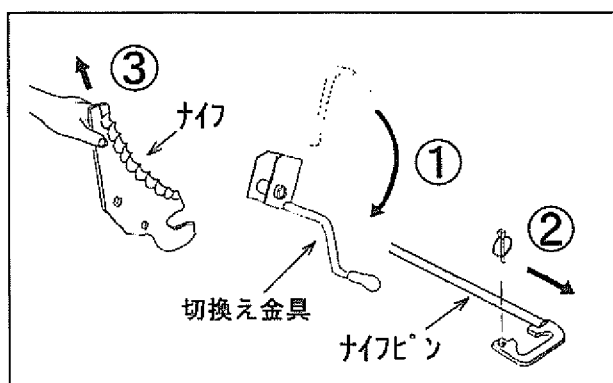
グランドPTOまたは逆転PTOによる逆転は機材を破損させますので絶対に使わないで下さい。

運転に必要な装置の取扱い

◆ナイフの交換

チャンバーを開け、ロック金具をセットします。エンジンは必ず停止させてください。

- ①切換え金具を無切断にしてください。
- ②ナイフピンを抜いてください
- ③ナイフを抜いてください。



⚠ 注意

ナイフの取り扱いには十分注意をしてください。
これを怠ると傷害事故につながる恐れがあります。

13. テールランプの確認

カプラーをトラクタの接続コネクタ(CN 8 極コネクタ)に接続し、ライトが正常に点灯することを確認してください。



トラクタ側の燈火装置用ソケットが日農工規格で定めるトレーラ用接続コネクタではなく、DIN 規格品の場合、販売店に DIN 規格の変換ハーネス (別売) をお問い合わせ

わしてください。

ヘンカンハーネス 36102-2640-000

注意

ハーネスがチェーンや可動部に干渉していないか確認してください。

- ・チャンバーをゆっくり開閉して配線に余裕があるか、擦れたり挟まれたりしていないかを確認してください。
- ・トラクタとの間の配線は、他の配線と共締めしてください。

⚠ 警告

コードに傷がつくと正常な点灯が行われず、思わぬ事故をおこす恐れがあります。

作業方法

1. 作業前に

◆注油のチェック

注油タンクのオイル残量をチェックし、注油スイッチを操作して装置に問題がないかを確認してください。

◆繰出しのチェック

コントロールボックスの電源を入れ、繰出しスイッチを入れてください。
「ピー」という音が約4秒鳴ればOKです。

◆ベールカウンタのリセット

ベールカウンタをリセットしてください。

◆ロール直径の設定

左右とも希望する直径に設定してください。

◆ロール密度の設定

左右とも希望する密度に設定してください。

◆ピックアップ高さの設定

タインが地面に接触しないように、ローリンクでピックアップ高さを決めください。
ゲージホイールを使用する場合は固定位置を決めてください。

◆プレスバー高さの設定

草の種類とウインドローの大きさにあったプレスバーの位置に固定してください。

◆チャンバーを開閉

電装と油圧の確認をするため、PTOを回転させチャンバーを開閉します。

2. PTOの回転速度

PTOをつなぐ時は必ずエンジン回転を低速にしてください。高速回転で接続すると機械の寿命を著しく縮めます。

この機械で作業するときの回転速度は500～540 min⁻¹(rpm)です。

これ以外の回転速度での作業は故障の原因となりますので、行わないでください。

3. 拾い上げ方法

◆ウインドローを作ってください

拾い上げ梱包には、必ずウインドローを作ってください。

注意

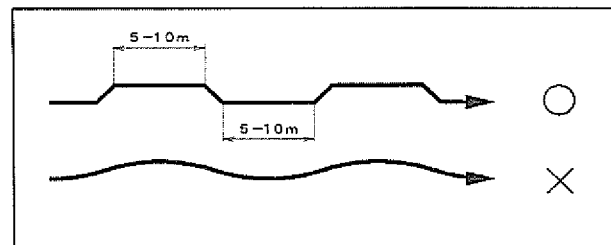
ウインドローが大きすぎると、詰まりの原因となり能率的な梱包作業ができません。

◆梱包作業

能率よく、形のよいロール作するためには草がベアラの幅いっぱいに入るように走行しなければなりません。

ウインドローの幅が狭い場合は下図の上のように走行して、左右交互にピックアップで拾うようにしてください。

下のように蛇行運転すると形のよいロールになりません。



作業方法

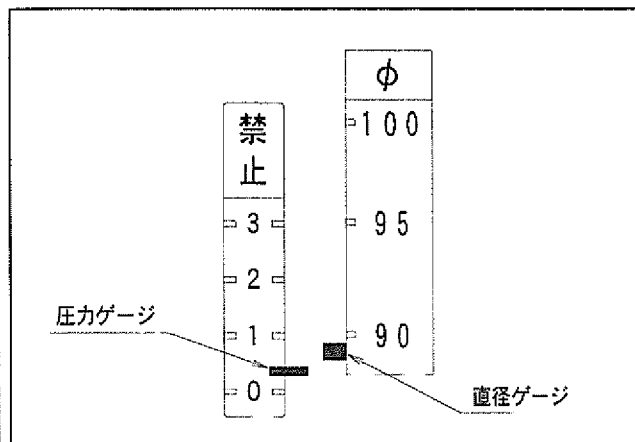
◆ゲージ確認

2種類のゲージが装備されています。

①直径ゲージのマーカが設定された直径になるまで動きます。

②圧力ゲージの針が動き始めます。

ゲージ針が動き始めたら走行速度を落としてください。



4. 作業速度について

4 km/時～7 km/時が適正速度です。

切断する場合は、これより速度を落としてください。

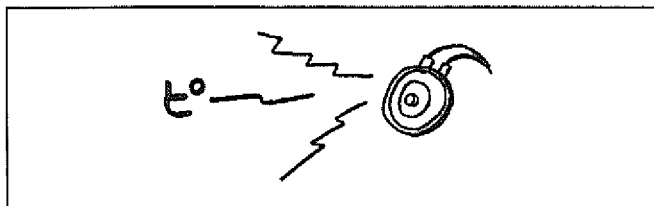
5. コーナーでの走り方

コーナーではウインドローが大きくなりやすくなりますので、作業速度を落としてください。

6. ブザーが鳴ります

ロールの圧力が設定圧になるとブザーが鳴り、約2秒後にネットまたはトワインが自動的に繰出されます。

繰出しが始まるまでピックアップし、ゆっくり走行停止してください。



◆チャンバーを開けてロール放出

結束中はコントロールボックスから断続音が出ます。音が止まったら結束完了です。

チャンバー開閉スイッチを操作してロールを放出してください。

⚠ 注意

後方に人や動物のいないことを確認してください。

また、傾斜地では放出した梱包ロールが転動しないよう、平坦な場所に放出してください。

◆放出確認してチャンバーを閉じる

チャンバーから放出できたことを確認してから、チャンバーを閉じ再び作業をスタートしてください。

7. 傾斜地での作業

◆必ず直角走行・急ハンドル禁止

斜面に対して直角方向に走行し、旋回は速度を落として、急ハンドルを切らないで旋回してください。

⚠ 警告

斜面の等高線に平行、または斜め走行や急旋回は横転の危険がありますので決して行わないでください。

作業前の点検について

作業の安全確保と、故障を未然に防ぐには、機械の状態をよく知っておくことが大切です。始業点検は、始業時に欠かさず行ってください。



警告

- 取外したカバー類は必ず取付けてください。衣服が巻き込まれたりして危険です。
- 点検・整備をするときはP T Oを切り、エンジンを停止させ、回転が止まってから行ってください。

点検一覧表

No	項 目	内 容	チェック
1	コントロールボックス電源	電源ランプ点灯確認	
2	ネットブレーキドラム	錆チェック	
3	ネット／トワイン繰り出しローラ	泥、汚れチェック	
4	繰り出しベルトテンショナー	動作チェック	
5	トワイン案内金具	マーク位置確認	
6	タイトチェン	伸びチェック	
7	可変径部	左右の設定確認	
8	圧縮リンク	左右の設定確認	
9	自動注油タンク	オイル補充、ノズル掃除	
10	予備シェアボルト	不足の時は補充	
11	クローラ	張り調整	
12	切断ナイフ（V Cタイプのみ）	切れ味チェック	
13	その他各部注油・グリス	各部への給油参照	
14	テールランプ	点灯確認	

点 検 メ モ

簡単な手入れと処置

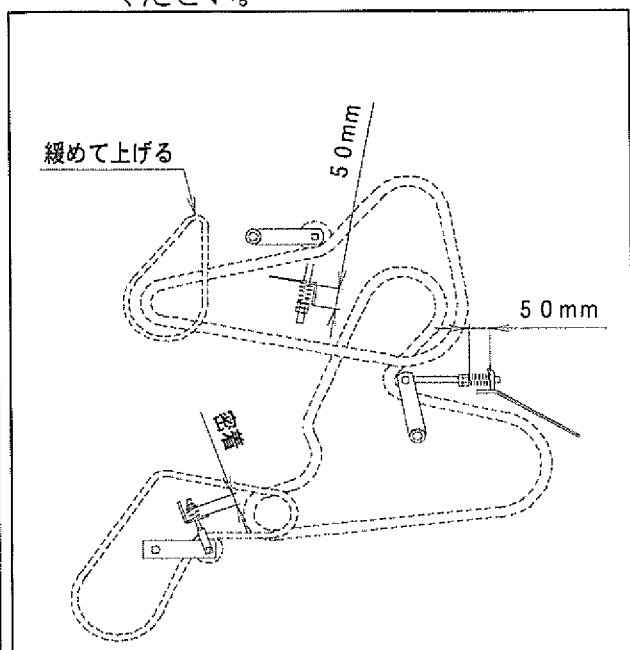
1. チェンの張り調整

◆タイトチェーン部

「運転に必要な装置の取扱い」の隙間調整（21ページ）に沿って張り調整を行ってください。

◆駆動チェーン部

左側面カバー内に駆動チェーンがあります。下図の要領で張り調整を行ってください。



注意

チェーンは特に初期伸びをします。
初めての使用から1時間後に張り調整を行ってください。

警告

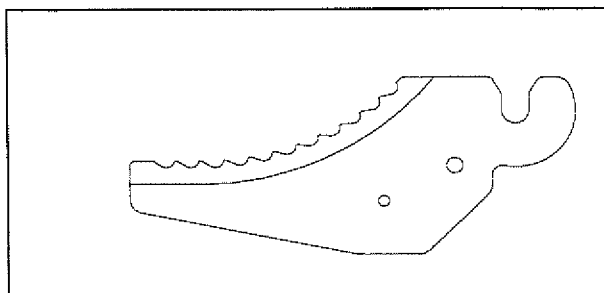
チェーンの張り調整や、各部の調整をするときは、トラクタのPTOを切りエンジンを停止させて回転部が止まってから行ってください。

2. 切断ナイフの手入れ（VCタイプのみ）

◆定期的に研磨する

ナイフは研磨しないと切れ味が悪くなり、馬力を喰う原因にもなります。

毎作業前に平らな方を研磨してください。



注意

ナイフの取り扱いには十分注意をしてください。

これを怠ると傷害事故につながる恐れがあります。

注意

一気に研磨すると焼なましされてナイフの減りが早くなります。少し研磨して冷やす、を繰り返してください。

3. クローラ部の点検

◆定期的に点検を

ゴムクローラが緩んだまま走行すると、内周面のゴムが早期に摩耗し、クローラの寿命が短くなるおそれがあります。

また、走行中にクローラが外れるおそれがありますので、定期的に点検を行なってください。

◆注意点

ゴムクローラの張り調整は、ペーラを前進で停止させ、調整ボルトにて行ってください。調整後は、確実にロックナットで固定してください。

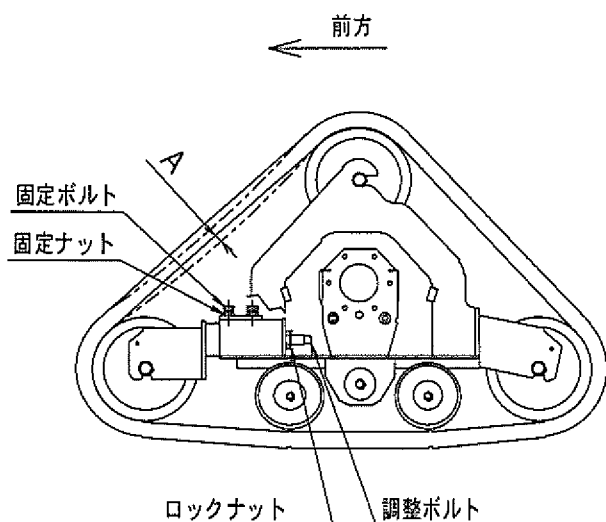
◆調整方法

①調整ナットおよび調整ボルトを緩めてください。

②ロックナットを緩めてください。

簡単な手入れと処置

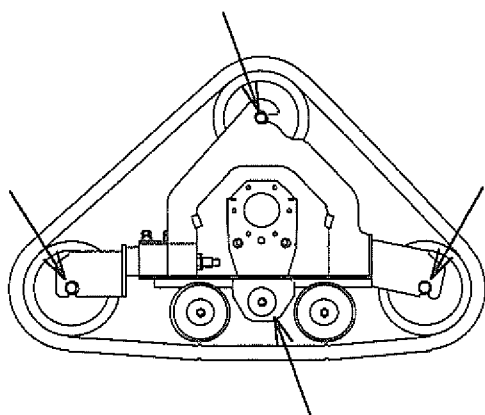
- ③クローラの前方斜面中央部を20～25 kgで押した時、A部のたわみが10～15 mmになるように、調整ボルトを回転させてください。



- ④ロックナットを締めてください。
⑤固定ボルトおよび固定ナットを締めてください

◆グリスアップ

50時間使用毎に下図の4ヶ所にグリスアップを実施してください。

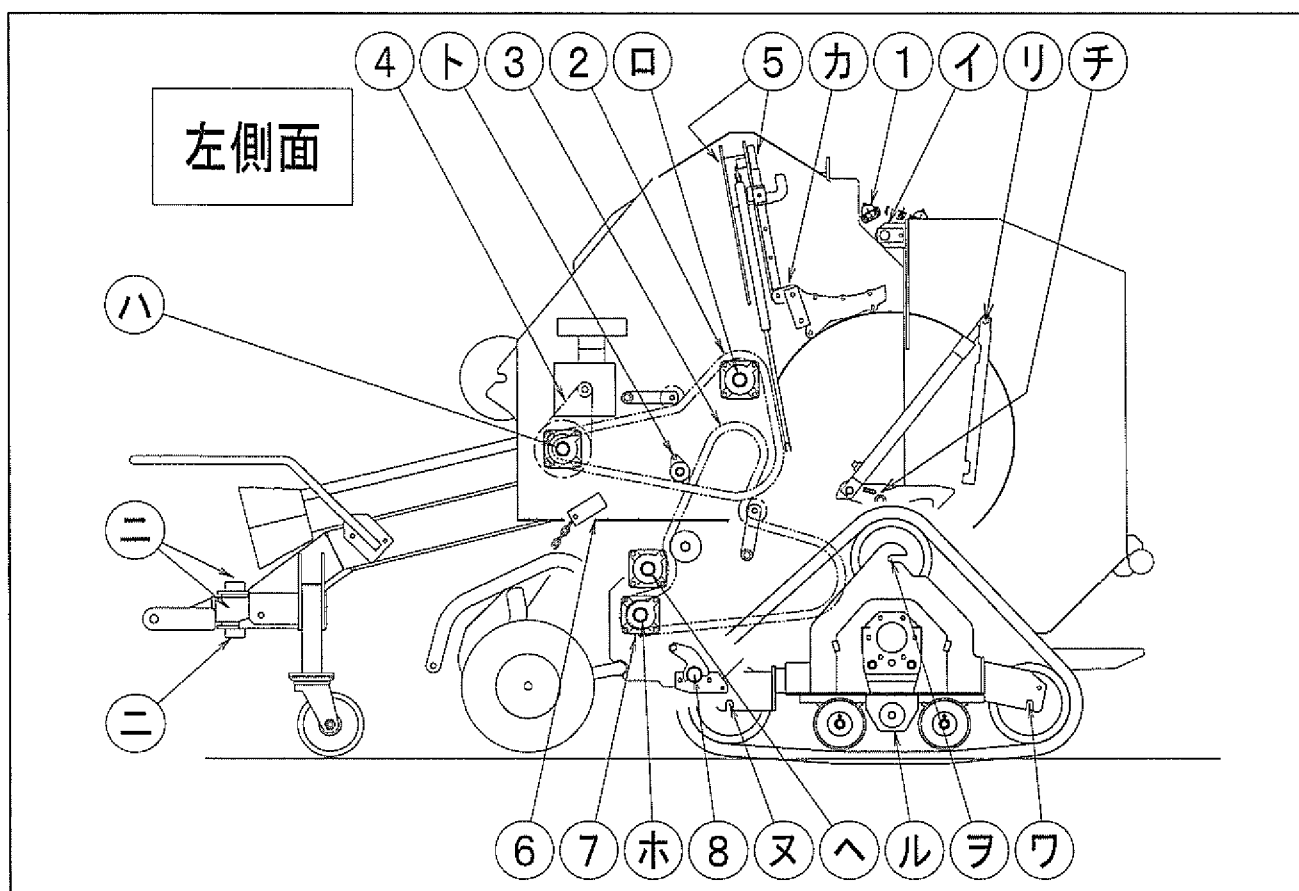


警告

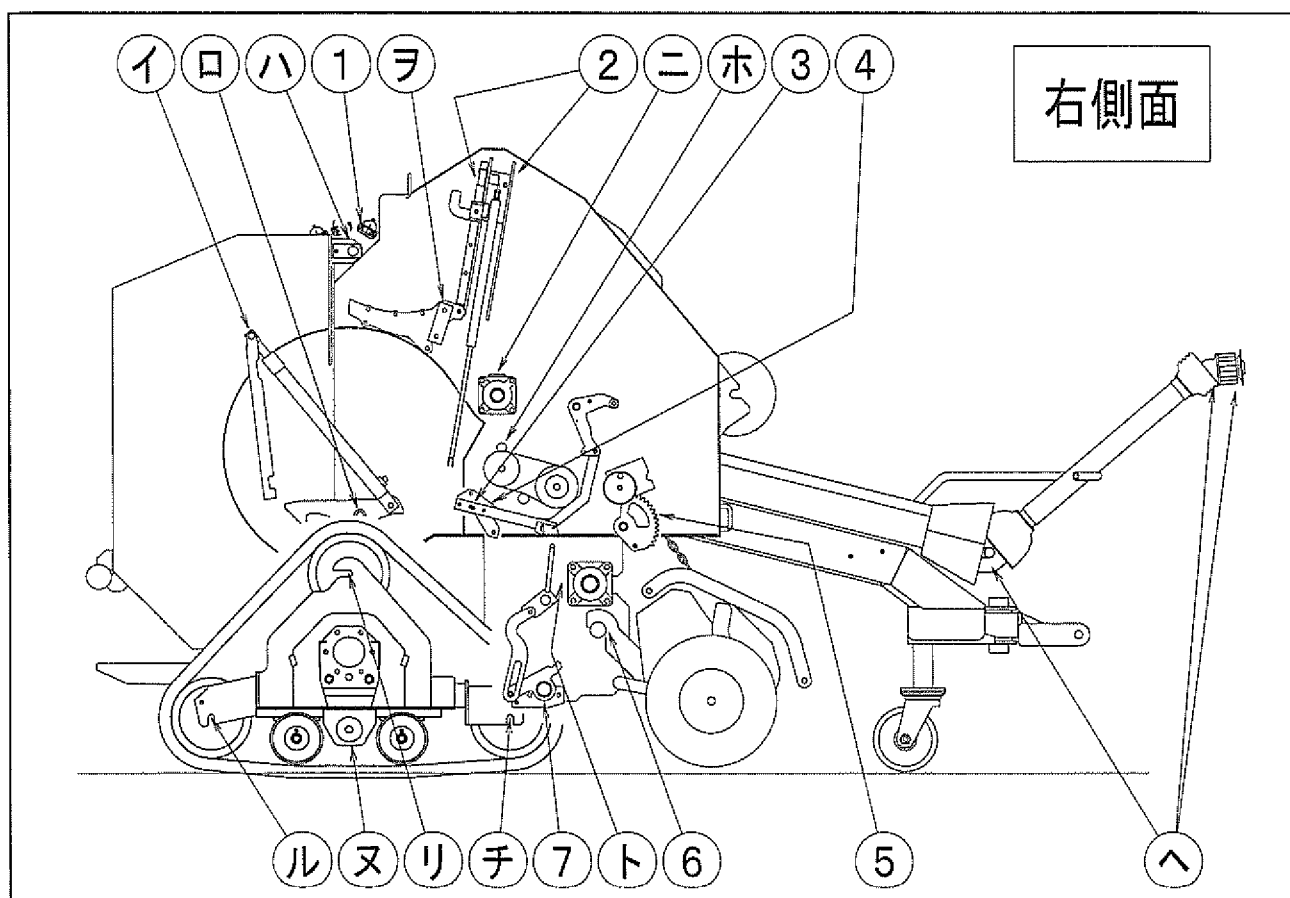
クローラに関係する作業を行う場合は、安全な場所に本機を降し、必ず歯止めをしてから行ってください。

4. 各部の注油・グリスアップ

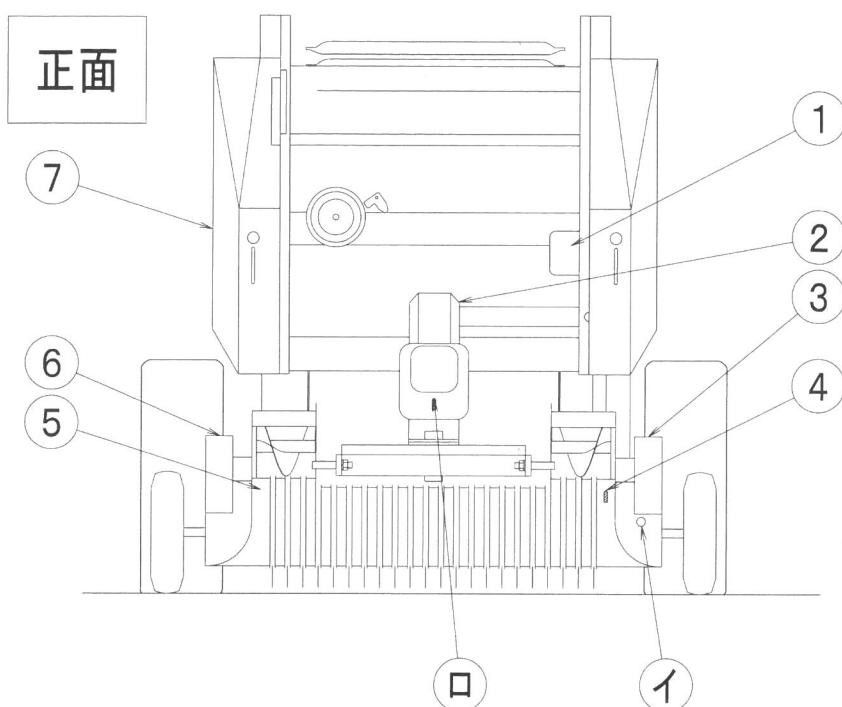
図表に従って各部に注油・グリスアップを行ってください。



番号	場 所	注油時間	番号	場 所	グリスアップ 時間
1	タイトチェン	作業前	イ	チャンバー開閉支点	20時間毎
2	主駆動チェン	作業前	ロ	タイトチェン軸受け	20時間毎
3	2 段目駆動チェン	作業前	ハ	主駆動軸受け	20時間毎
4	油圧駆動チェン	作業前	ニ	ヒッチ支点 (3ヶ所)	20時間毎
5	スライドレール (2ヶ所)	作業前	ホ	ピック駆動軸受け (2ヶ所)	20時間毎
6	ピック昇降軸支点	20時間毎	ヘ	カッティングドラム軸受け	20時間毎
7	ピックアップ支点	20時間毎	ト	ゴムローラ支点軸受け	20時間毎
8	安全装置支点 (VCのみ)	20時間毎	チ	チャンバーロック金具	20時間毎
			リ	リアチャンバー押し上げ軸	20時間毎
			ヌ	テンション輪	50時間毎
			ル	運動支点	50時間毎
			ヲ	アイドラー 上	50時間毎
			ワ	アイドラー 後	50時間毎
			カ	圧縮リンク支点	20時間毎



番号	場 所	注油時間	番号	場 所	グリスアップ 時間
1	タイトチェン	作業前	イ	リアチャンバー押し上げ軸	20時間毎
2	スライドレール(2ヶ所)	作業前	ロ	チャンバーロック金具	20時間毎
3	タイマーアームばね部	20時間毎	ハ	チャンバー開閉支点	20時間毎
4	ナイフベース支点軸	20時間毎	ニ	タイトチェン軸受け	20時間毎
5	ピック昇降軸支点	20時間毎	ホ	プーリ軸受け	20時間毎
6	ピックアップ支点	20時間毎	ヘ	ジョイントヨーク(3ヶ所)	20時間毎
7	安全装置支点(VCのみ)	20時間毎	ト	カッティングドラム軸受け	20時間毎
			チ	テンション輪	50時間毎
			リ	遥動支点	50時間毎
			ヌ	アイドラー 上	50時間毎
			ル	アイドラー 後	50時間毎
			ヲ	圧縮リンク支点	20時間毎



番号	場 所	注油時間	番号	場 所	グリスアップ 時間
1	油圧パッケージ VG32 1.6L	作業前に確認	イ	ピックアップカム	作業前
2	ミッションケース/ ギヤオイル#90 0.8L	100時間毎 に入れ替え	口	入力軸受け	20時間毎
3	ピック駆動チェン	作業前			
4	タインバー	作業前			
5	タインバー	作業前			
6	オーガ駆動チェン	作業前			
7	注油タンク VG32 5L	作業前			



警告

各チェン、各回転部分や摩擦しゅう動部分には十分注油してください。また、部品が摩耗したまま使い続けると、摩擦による加熱の原因となり、場合によっては火災となります

6. 長期格納時の手入れ

- 付着した泥やほこり等を落とし、巻き付いた草等を取り除いてください。
- 各回転・摺動部やチェン類には十分注油し、錆ないようにしてください。
- 塗装のはがれた部分には、補修塗料を塗って、錆が出ないようにしてください。
- 各部のボルト・ナットがゆるんでいないかを確認し、ゆるんでいるときは締めてください。
格納する場所は、雨やほこりのかからない屋内に保管してください。
- 格納は平坦な所で保管してくだ

不 調 診 断

	不調内容	診断	処置
ローラー	ローラー径が大きくなる	タイトチェンが伸びている	張り調整を行う
		張り調整の誤り	調整方法を確認する
	左右の径が違う	片側にしか草が入っていない	左右均等に入るように走る
		ローラー径の設定が左右異なる	左右とも同じローラー径に設定する
	固くならない	梱包密度が低い	密度を一段上げて作業する
		密度の設定が左右異なる	左右とも同じ密度に設定する
		走行速度が速い	圧力ゲージが上がり始めたら速度を1段遅くする
	馬力を喰う	草が馬力を喰う水分量になっている	密度を一段下げて作業する
		草が詰まっている	チャンバーを開けて草を取り除く
		注油不足	注油タンク、配管に空気が入っていないか確認する
	草が入り口で詰まる	作業速度が速い	速度を1段遅くする
		プレスバーの位置が低い	プレスバーを上げる
		ナイフが切れない	ナイフを研磨する
		ゲージホイールで草を踏んでいる	ゲージホイールを地面から浮かす又は効かなくする
放出	フロントケースから出てこない	梱包密度が高すぎる	密度を一段下げて作業する
		前傾姿勢で作業している	作業機が水平になるようにロワーリンク調整する
ピック	ピックアップが昇降しない	ギアのかみ合い部にほこりが噛んでいる	ほこりを掃除する
		ヒューズが切れている	ギアのほこりを掃除してヒューズを交換する
		支点部の回転が固くなっている	ピック昇降ギアの支点部に注油する
	昇降速度が遅い	支点部の回転が固くなっている	ピック昇降ギアの支点部に注油する
	短い草を拾わない	タインで前に吐き出している	プレスバーを下げる
	シェアボルトがよく切れる	タインで地面を搔いている	ロワーリンクを上げる

不 調 診 断

ネット	ネット巻きがスタートしない	電源が入っていない	電源を確認する
		ヒューズが切れている	繰り出しギア部のほこりを掃除してヒューズを交換する
		回路がリセットされていない	電源を入れなおす
		ベルトテンションが動作していない	テンション金具が軽く動くかを確認する
	繰り出しローラに巻き付く	ゴムローラが濡れている	水分をふきとる
		土や泥が付着している	土や泥を取る
	巻き始めにネットが切れる	ブレーキが強すぎる	ブレーキバネを前側に掛けてブレーキを弱くする
		ブレーキが強すぎる	付属の弱いブレーキバネと交換する
		P T O回転が速すぎる	5 4 0 回転以下にする
		ブザーが鳴ってすぐに停止している	繰出しが始まったらゆっくり停止する
		ブレーキドラムがさびている	ブレーキドラムの錆を取る
		タイマーナイフがタイマージクに載っていない	タイマーナイフが軽く動くように掃除をする
	カッティングドラムに巻き付く	ブザーが鳴ってすぐに停止している	繰出しが始まったらゆっくり停止する
	ネット巻きが緩い	通し方が間違っている	通し方を確認する
		ブレーキが弱い	ブレーキバネを後ろ側に掛けて強くする
		ブレーキシューが減っている	ブレーキシューを交換する
	ネットが広がらない	通し方が間違っている	通し方を確認する
		ブレーキが弱い	ブレーキバネを後ろ側に掛けて強くする
		ブレーキシューが減っている	ブレーキシューを交換する
	放出後にネットが破れる	巻き数が少ない	巻き数を増やす
	切断しない	タイミングリンクが動作していない	トワインガイドが所定の位置にあるかを確認する
		タイマーナイフが減っている	タイマーナイフを研磨または交換する

不 調 診 断

トワイ ン	トワイン巻きが スタートしない	ヒューズが切れている	繰り出しギア部のほこりを掃除してヒューズ を交換する
		繰出し時にスリップして いる	通し方を確認する
		繰出し長さが短い	P T O回転を速くする
		トワインがもつれている	通し方を確認する
	巻きが緩い	ブレーキが弱い	ナットを締めてブレーキバネを強くする
		巻付けピッチが荒い	トワインを大プーリに巻きつける
	カッティングド ラムに巻き付く	ブザーが鳴ってすぐに 停止している	繰出しが始まったらゆっくり停止する
	巻きピッチが 一定でない	ベールがピア樽形状に なっている	均一なベールになるように走行する
		ブレーキが弱い	ナットを締めてブレーキバネを強くする
		横送り金具の動作が悪い	軽くスライドするように掃除する
	切断しない	タイミングリンクが動作 していない	横送りチェンを張る
電装	ヒューズがよく 切れる	繰り出しギア部にほこり が噛んでいる	繰り出しギア部のほこりを掃除する
		ピック昇降ギア部にほこ りが噛んでいる	ピック昇降ギア部のほこりを掃除する
	自動で繰出さな い	回路がリセットされてい ない	電源を入れなおす
	作業中にピーピ ー音が鳴る	草が詰まっている	チャンバーを開けて草を取り除く
	ピーピー音が鳴 り止まない	ネットが切断されない	タイミングリンクの位置をチェックする
トワインが切断されない		横送りチェンを張る	
注油	オイルが出ない	タンクとポンプの配管に 空気が入っている	エア抜きをする
	オイルが出すぎ る	番手が小さい	調整ネジをしめる
テール ランプ	ランプがつか ない	ハーネスの断線	結線する

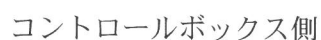
付 表

1. 主要諸元

型 式		VR-981WXC	VC-981WXC
名 称		クローラロールペーラ	クローラロールペーラ
装 着 方 法		2P Vヒッチけん引式	
駆 動 方 法		PTO駆動（回転速度 500～540min ⁻¹ (rpm)）	
適 応 ト ラ ク タ		24.2～58.8kw（33～80PS）	
機 体 寸 法	全 長	3,150mm	
	全 幅	1,990mm	
	全 高	1,940mm	
質 量		1,515kg	1,540kg
作 業 幅		150cm	
クローラサイズ		幅280mm×P72×43リンク	
接 地 長 さ		825mm	
平 均 接 地 圧		23.5kPa（0.24kg/cm ² ）	
ベ ー ル 寸 法		φ90～100cm×85cm	
切 断 寸 法		—	9cm・無切断
ナ イ フ 枚 数		—	7
チャンバー開閉		内蔵油圧	
ピックアップ昇降		電動モータ	
結 束 装 置		ネットおよびトワイン	
作 業 速 度		4～7km/h	
作 業 能 率		6～9分／10a（ネット使用時） 9～13分／10a（トワイン使用時）	7～10分／10a（ネット使用時） 10～14分／10a（トワイン使用時）

※この主要諸元は、改良などにより、予告なく変更することがあります。

2. 電装-1



本体側

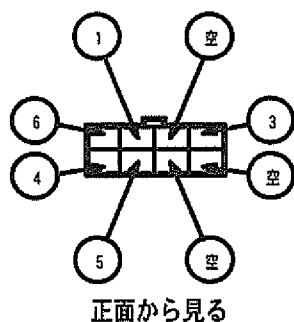
— 39 —

付 表

2. 電装－2

テールランプキット

端子NO	配線色	接続機器
1	黄色	左ウインカー
2		
3	白色	アース
4	緑色	右ウインカー
5	黒色	尾灯
6	赤色	制動灯
7		



端子NO	配線色	接続機器
3	白色	アース
4	緑色	右ウインカー
5	黒色	尾灯
6	赤色	制動灯

端子NO	配線色	接続機器
3	白色	アース
1	黄色	左ウインカー
5	黒色	尾灯
6	赤色	制動灯

